明治四十二年十月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百三十九號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第貳百參拾九號目次

大日本婦人衛生會

十一月例會通知

來る十一月六日(第一土曜)午後一時半より神田一ッ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一演題未定　醫學士　吉井丑三郎

一產科學上より見たる人口の論　醫學士　相馬又二郎

明治四十二年十月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

事務所高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條　本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條　本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條　服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁す

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條　本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ケ年トス●第參條　毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキニハ其旨事務所ニ届出ヅベシ●第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條　服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條　特ニ支會規則ニ揭ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども未だ衛生の事に至りては更に注意を想かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敘べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の紹介を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は細則に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託する事あるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け●第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會　評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め開遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實況を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書面物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざるものあるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

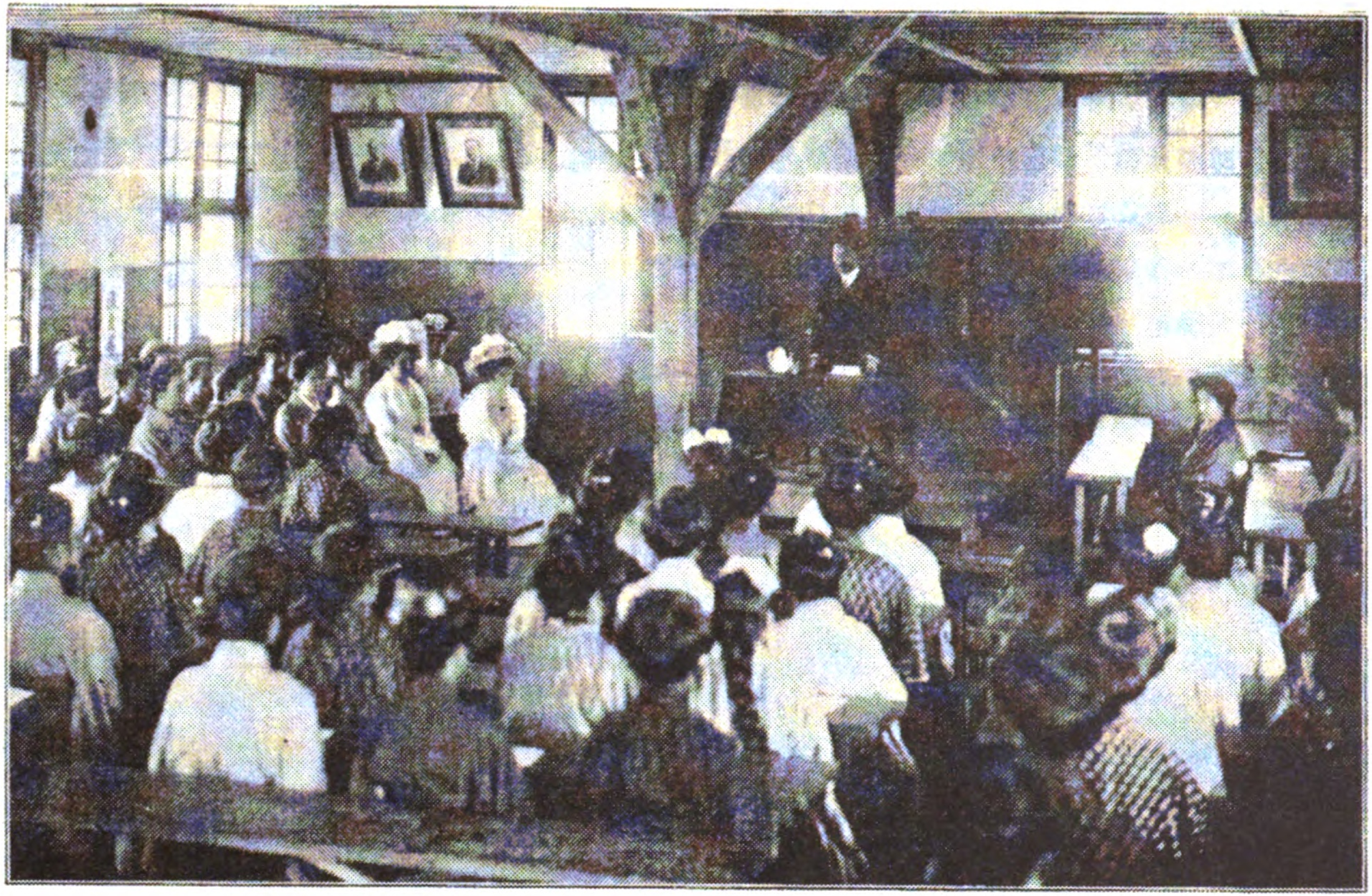
總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子
（いろは順）
幹事　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木錸子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敎子
評議員　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　服部繁子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　土肥多越子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
評議員　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
同　山口貞子
同　子爵夫人　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本業子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別贊成員（いろは順）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　石川千代松君
醫學士　石原久君
醫學士　石原喜久太郎君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
ドクトル　伊澤信平君
醫學博士　伊東祐彦君
色川圀士君
岩井禎三君
藥學博士　石津利作君
醫學士　磐瀬雄一君
長谷川泰君
法學博士　鳩山和夫君
萩原瀾四郎君
醫學博士　林春雄君
原胤昭君
醫學士　橋本左武郎君
醫學博士　濱田玄達君
男爵　濱尾新君
醫學博士　芳賀榮二郎君
西田敬止君
ドクトル　西山信光君
本田増次郎君
醫學士　島居春洋君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大野豐太君
醫學士　大西秀治君
子爵　小笠原長生君
ドクトル　小此木信六郎君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　岡田和一郎君
恩田重信君
醫學博士　緒方正規君
醫學博士　大澤岳太郎君
醫學士　渡邊房吉君
醫學博士　加藤照麿君
法學博士男爵　加藤弘之君
醫學士　河野衛君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　片山圀嘉君
醫學士　賀古鶴所君
醫學士　堅田龜一郎君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　甲野棐君
醫學士　米山彦郎君
橫井忠圀君
醫學博士　高橋順太郎君
男爵　高崎正風君
高嶺秀夫君
醫學士　高田畊安君
ドクトル　高山紀齋君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　田代義德君
醫學士　田付光顯君
醫學士　田村化三郎君
醫學士　竹中成憲君
藥學博士　丹波敬三君
法學博士　高木豐三君
醫學博士、男爵　高木兼寬君
理學博士　坪井正五郎君
醫學博士　土田卯三郎君
男爵　辻新次君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學博士　長與稱吉君
藥學博士　長井長義君
男爵　南部甕男君
醫學博士　能勢靜太君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學博士　栗本東明君
醫學士　栗本廣勝君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　吳秀三君
醫學博士　山田鐵造君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
ドクトル　山上兼輔君
ドクトル　松山陽太郎君
丸山長四郎君
ドクトル　富士川游君
布施正顯君
男爵　後藤新平君
醫學士　古川榮君
小高展造君
小西信八君
醫學士　寺田職尾君
醫學士　寺田豐作君
寺田勇吉君
醫學博士　朝倉文三君
子爵　秋元興朝君
足立寬君
ドクトル　朝山義六君
醫學士　淺田決君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學博士　榊順二郎君
醫學博士　榊保三郎君
醫學博士　櫻井恒次郎君
醫學博士　佐藤三吉君
齋藤清文君
醫學士　笹川三男三君
醫學士　櫻井郁二郎君
ドクトル　佐藤運雄君
醫學士　佐藤德齋君
醫學士　澤崎寬制君
ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　木下正中君
醫學博士　桐淵鏡次君
醫學博士　木村德衛君
醫學博士　北島多一君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學士　北村楠造君
醫學博士　北川乙治郎君
ドクトル　菊池循一君
醫學博士　三輪信太郎君
醫學博士　宮本叔君
宮本仲君
宮川保全君
理學博士　箕作佳吉君
水原漸君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三浦謹之助君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三浦守治君
島田三郎君
ドクトル　志村誠麿君
醫學博士　島村俊一君
ドクトル　日高昻君
醫學博士　弘田長君
伯爵　土方久元君
醫學士　百瀨玄溪君
醫學士　森田正馬君
醫學文學博士　森林太郎君
醫學士　澄川德君
ドクトル　須田卓爾君

向テ左側前列右ヨリ
總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 鍋島侯爵夫人 副會長 濱尾男爵夫人 幹事 鳩山博士夫人 高木博士夫人



私立大日本婦人衛生會十月例會講筵

講演

軍隊衛生の話

陸軍三等軍醫正 ドクトル　大塚陸太郎

私は名譽ありまする所の本會に於きまして、本日講演をいたしまするのは誠に光榮と存じます。先程も御話が御座いました通り、實は今日森軍醫總監閣下が御出でになりまする所、御差支の爲に御出席になることが出來ませぬので、私に行つて何か御話をする樣にとの事でありましたので、甚だ非才訥辯を顧みず暫時此席を汚す事となりました次第で御座います。

唯今御紹介がありました通り、軍隊衛生と云ふ事に就て御話しを申上げたい積りで御座います。此御婦人方の御集りになつて居られまする所で、軍隊の衛生と云ふことを說きまするのは、聊か見當が違つて居るかのやうに思ひまして、實はいろ／＼と考へても見ましたけれども、他に適當な考へも付きませぬのと、併ながら軍隊衛生と云ふと矢張地方衛生と異ならない、即ち一人の兵卒がすることも、地方の人人がする事と少しも衛生上に於て違はないのであります。故に其の御話を申上げまするならば、多少皆樣方のなさいまする衛生上の御利益にも、或は御參考にもならうかと思ひましたので、此處に御話しする事に致したのであります。

元來軍隊と申しまするものは、多數の人間が一つ所に集つて居りまするので、丁度大きな家族が、即ち大家族が一家に住んで居るのと同じ事であります。それで御座いますから、兵卒一人々々のする事は、矢張り一家内に於て皆樣が一人々々でなさる事と同

じ事である、又全體の兵卒がすることと、一家族の者が擧つてする事と、唯人數が多いと云ふだけで、少しも異なつたものではないので御座います。けれども兎角軍隊の事はうちにつゝまれて居つて、これまで餘り外に分らぬ事が多いので御座います。敢て自分等の功を誇るわけではありませぬが、折角衛生官などが刻苦して致して居りまする事なども、比較的外に分つて居らない事か多いので御座います。故に成べくはそれ等の點をかいつまんで御話を致したい積りで御座います。

軍隊衛生と申しまするど、非常に問題が大きいので御座います。それで其内の一節を御話し致しましても、優に二時間三時間位を費さんければなりませぬ。さりながら今日は極く簡單に唯大體を御話申上げたいと思ひます。

それで此の衛生を分けまするど、平時の衛生と戰時の衛生と二つになりますが、戰時の衛生は、今日此所には申上げませぬ、主として平時に關係した事のみを申上げる積りで御座いますが、此又個人の衛生と申しまして、一人々々が氣を付けて居つてやらなければならぬ所の衛生と、公衆の衛生とて、或る事故が起つた時、若くば責任を有つて居る衛生官等が毎日軍隊全部に於て行つて居る事との二つに分れるでありますが、今日は主として個人衛生に就て申上げ、若し時間がありましたならば公衆衛生を御話し仕樣と思ひます。

軍隊に於て個人衛生と申しまするは、國民が新兵として毎年十二月一日に入營しまするど、直に衛生講話と稱へまして起居の事より敎へ、其後何時でも暇さへあれば、繰返々々敎へるのでありますが、つまり誰でも、何時でも心掛て居らねばならぬ事柄に過ぎないのであります。

起床後の注意　卽ち朝起きてからの注意であります。御承知の如く。總て軍隊では朝起きまするには起床喇叭と云ふのが鳴ります。此頃は五時であります。消燈喇叭とて寢る時を知らす喇叭を吹きます。

之が午後九時でありますから、約八時間位寢るのてありますが、其朝起きる時は喇叭が鳴ると同時に必ず起きなければならぬ規則になつて居ります。然るにどうかすると何時も早く起きたがる癖があつていかないのであります。何故いかないかと云ふと、人間の寢る時間と云ふものは、一定の時間は寢なければ、もし睡眠が不足すると、其日一日不快で、何をしても活氣に乏しく、何時もボンヤリして間違を起し易い、起床と同時に起きて窓を開けます。其窓の開けかたは、冬でも夏でも開けられるだけ大きくあけます、さうして面を洗ひに參ります。其面を洗ふと云ふ事に就て申上げて置きたいのであります。是は兵卒ばかりでない、御婦人方に於ても御注意になつて宜しからうと思ひます。それは澤山の人間が集つて居りまする所では、種々の眼病、殊に能く流行りまする所のトラホーム其他の眼病、或は種々の皮膚病などが出來て居る者もないとは限らぬ、もし夫れ等の人の使つた所の手水盥を使ふならば直ぐに傳染する、夫れが爲に兵營では、手水盥と云ふものに注意して、今日では直ぐに水道の栓から面を洗つて居ります。其水道の栓を使ふやうに成つて、少しは夫れらの豫防が出來るやうになつて參つたのであります。又洗面に際し、唾、痰、若くは、鼻液の爲周圍を不潔にする事なども嚴に禁じて居ります。又御婦人方に於ては、決してさう云ふことも御座いますまいが、楊子を使ふ事であります。兵卒などで山間から出てまゐつた者などには、齒を磨かないのもありますが、さういふ者には必ず幹部の者が、齒の汚れて居るか、汚れて居ないかと云ふ事を見て注意して居ります。齒と云ふものは、汚れて居ると、從て容貌が惡くなるばかりでなく、齒に種々な不潔物が附着して居ると、夫れから種々の齒の病氣が起るのであります。勿論齲齒は、人間の齒の性質にも依りますが、多くは不潔にして居る結果に過ぎないのであります。夫れらの事は餘程注意して居りますが、大抵這入つて來て、三四ヶ月になりますと、齒は見

好くなるのであります。

室内清潔法　面を洗ひますと同時に、室内の掃除に掛ります。此掃除は軍隊では、毎日の掃除と、毎週の掃除と、毎期の掃除と、臨時の掃除と、の四つに分けて居ります。毎日の掃除は、朝夕やる、毎週の掃除は、毎土曜日にやります。毎期の掃除は、春夏秋冬四季に大掃除をやります。毎日の掃除は、室内の板張りの上に埃が入るから、其埃の中に黴菌が入つて居つて、之が病氣になる基になりますから、水を撒いて、かたい雑巾で拭かして居る。普通一般にやるのと違つて居りませぬが、此毎週にやる所の掃除は、夫れよりは今少し念が入つて居ります。然しながら毎期、即ち春夏秋冬の四季にやる所の清潔法と云ふものは、余程大袈裟にやつて居ります。夫れは、室内の手の届く所は、悉く石炭酸であるとか、昇汞水であるとか云ふ様な薬で拭きます。手の届かぬ所は、此等の薬を撒布して以て消毒を致します。それから床の板と板の隙間であります。それは皆釘で以て能く塵埃を掘出し、石炭酸をマルで川の様に流して消毒します。夫れと同時に又兵卒の着て居りまする所の服及び寝具、皆是は毛布でありますが、或は藁蒲團もありますが、これは蒸氣消毒を以て、すつかり消毒をするのであります。其れから寝臺も消毒致します。其れは一間四方ばかりの釜が拵へてありまして、其中に湯をいつぱいに沸して置いて、其處へ持つて行つて、約十分間ばかり漬けて置いて、すつかり床蝨の如きものを殺してしまひますのです。斯の如き状態で、春夏秋冬の四季に一ぺんづゝは必ずやり、其他臨時の掃除は、多くは傳染病が流行して來た場合にやりますが、其臨時にやる方法も矢張り四季にやる方法と大して異りませぬ。

兵舎内は悉く靴を脱がす、さうして其靴は一定の靴箱に入れさして居りますが、或る所では全く上草履も穿せませず、或所では之を穿して居りますが、之を用ひますと、どうしても其のまゝで下へ降り、又其まゝで上に昇るのであります。従て室内及廊下な

どを不潔にすると云ふ事を免れぬ、而して又之を穿せぬと、足の外皮病等を發し、又汚れた足で直ぐに床に這入つて、夜具を不潔にすると云ふ弊害がありますから、何れが利であるか、攻究すべき問題で、之は兵營に於ても一の問題であつて、今に雙方とも用ひて居ります。兎に角靴のまゝ登ると云ふ事は、何處へ行つてもやつて居りませぬ。

又痰壺は、各室に之を備附け、成丈見易き所に置き水は其四分一に盛り、痰をしても水の飛び出ぬ樣にし、毎朝水をかへるのです。

室内の清潔と同時に氣を付けて居りますのは、窓の開け方であります。所謂、換氣法であります。換氣を十分にする爲には、冬でも夏でも、十分に開けておけば宜しいが、冬の寒い時には、さう出來ず、又晝の間と、夜の間の開閉は、自然と違はなければならぬ。そこで、兵營に於ては、窓の開け方と云ふものが、大凡一定されて居ります。然しながら或る天候に由て、一概に云ふ事は出來ませぬ。卽ち暴風雨に窓を開けて置けば、雨が這入つて來る、又春であつても天候の好い時は、窓を少しく開けて置けば暑い、それが爲めに十分開けなければなりませぬと云ふ如く、詰り一定にして居るのでありますけれども時に由つては、これを變更しなければならぬのでありますから、此頃では、毎日週番の士官が、此れを定める事になつて居ります。

家屋の清潔と同時に、少しく御話が不潔のことになりますが、便所の事であります。兎角人の澤山に居りまする所は、便所が不潔になり易いのでありますが、其れで、軍隊では、普通の便所は何週一回、必ず消毒をして居ります。又下痢患者などを入れます所の便所は、毎日やつて居ります。其他歩兵隊で云ふと一の聯隊は十二個中隊から成立つて居りますが其各一の中隊毎に便所をきめて居つて、其中隊の者の他此便所に入れないことに、ちやんと定めて居ります。之れは若し一朝傳染病などがあると、悉くの便所を消毒しなければならず、其れのみならず、病

氣が一般に、一時に傳染し易いと云ふ所からしてあります。

飲食物に就て不消化物を食べてはいけぬとか、或は腐敗した物を食べてはいけぬとか云ふ事は、勿論の事でありますが、間食と云ふ事を深く戒めてあります、其れから又、軍隊には、御承知の如く酒保と云ふものがありまして、種々の日用品の他に、害にならぬ所の食物を賣つて居るのであります。其れは、一は安く物を賣り、一つは、兵卒は日曜日の他は、營外へ出る事が出來ないから、隊の中に於て之を買はすと云ふ便宜上から設けたのであります。其酒保は、矢張一定の時間に之を開き、又其賣る處の物品種類を定めて居りますし、又隊に由りては、一人買高の最上限を定めて居ります。これ一は冗費を省くと、一は間食を節するのであります。而も或所では一週間に二度、即ち土曜日、水曜日の外は、酒保を開けない、即ち間食をする事が出來ない譯になつて居ります。

其他毎日三度の食物の原品を檢査し、更に料理した所の物を再び檢査する事になつて居りますが、さうして其檢査した所の物は、二十四時間は屹度取つて置くと云ふ事になつて居りますが、これは兵營内に或る傳染病とか、中毒症などが起つた場合には、其取つて置いた所の食物を檢査して、さうして其原因を知る積るであります。

夏になりまするならば、禁制品と稱し、どうしても食つてはならぬと指定されて居るものがあります。或は章魚であるとか、蝦であるとか、天麩羅であるとか、或は氷であるとか、ラム子であるとか云ふものを禁じてあります。これは、兵營内に於ても、亦外出しても食つてはならんと禁じて居ります。而して此等は、木板に其品目を書いて、室内に掲げ、常に熟讀さして居ります。最も注意すべきは、生水を飲むと云ふ事であります。生水が多くの場合に於て傳染病の原因になると云ふ事は、分りきつた事でありますが、東京市内の水道の水の如きは、比較的

害がないのでありませうが、然しながら生水を飲む習慣があると、口が渇いて來ると、汚たない水でも何でも飲むです。汚たない水を、がぶ〳〵やられてはたまりませぬから、其爲に水を飲むと云ふ事は嚴重に禁じて居ります。それであるから、兵卒が外へ半日でも、一日でも出掛けて行く場合には、必らず沸水を冷したのを入れた水筒を持たして置きましてこれを飲まします。又兵營内に居つて、口が渇いたならば、湯を飲まします。これを飲すが爲には、居室の便利の所に桶を置いて、其内に何時も貯へてあります。夜中でも、一々ちやんと冷沸水があつて、飲ます樣な方法を講じて居ります。

其れから又これも餘り關係の少ない事であるか知れませぬが、兎角食物が冷たくなると溫い時には折角美味い物も不味く食べると云ふ事は隨分ありがちでありますが、殊に澤山の兵卒の食物を、一時に調へまするから、一部の者は冷たい物も食べなければならぬと云ふ所から、これまでは、一人々々の器に入れて分配して居りましたが、此頃では五十人なり三十人なり、大きな入物に入れて、それを持運んで、各々がそれをついで食べると云ふ樣な方法を講じて居るやうな事になつたのであります。これも一つの進歩でありまして、さうしまするさ、成程美味い物が食べられるが、甲の者は澤山食べる、乙の者は少なく食べると云ふ事になつて來ます。其弊害を防ぐために、最高級者が適當に分配法を定て居ります。

それから、此事も御婦人方に御關係のある事と思ひますが、料理をする爲め臺所を働く者であります。軍隊ではこれを炊事當番と云ふてますが、其衣類の汚れない爲に上衣を著て居ります。それは白いものを著て居つて、汚れた場合に於ては、能く知れるから更へるに都合宜しいが、時として、あれを著た儘、隨分便所などへ入る者があるのであります。又便所へ行かないが、其儘戸外を步き廻る、其爲に埃が附著する、不潔物が附著する、それで以て食物を調へるのでありますから、食物の上に持つて行つて

好い鹽梅に撒いて仕舞ひます、知らずしらずの間にやる事でありますから、不潔と云ふよりは、寧ろ危險でありますから、深く注意して居ります。

（以下次號）

叢談

小兒消化不良症の話

醫學士　内海靜一

小兒の御腹の病氣で一番油斷し易い者は、急性消化不良症であるかと思ひます、未だ莫大したことはない、まだ賣藥位で濟ましておけ、などと泰然としてる内に、突然病狀が重くなつて來て、如何なる療法を施すとも救ふことの出來なくなる樣な彼目に陷ることは屢〻ある病であります。實は此の病氣は季節から云ふと夏季に一番多いのでありますが、秋冬にあつても全然根絶すると云ふことはない、此の時季でも、能く見るのであります。

それですから只今申上げても決して時節はづれではありませぬから、其の大略の要點を、御話して世の母親たる方々の御注意を惹起したいのであります。

此病氣は一言に云はば、御腹の病氣であります、さう申せば、はーそれなら嘔吐下痢であるかと合點なさるゝでありましようが、所が簡單な容態ではないのであります。勿論下痢が第一の徵候には相違ないのでありますが其の外種々の症狀が現はれて參りまして、時には腦膜炎などと間違ふ樣な事もありまするし、時には小兒虎列剌と間違ふこともあるし、左に右色々の症狀があるのであります。

然らば甚麽性質の病氣であるか素人方で分る丈けの容態を申上げましよう。勿論此病氣にも輕重がありまして、一定した標準はないのでありますが、玆には先づ輕い方から御話致しましよう。

輕症のものは殊更多く御座りまして、即ち春夏秋冬

何れの時季を問はず絶えず有るものでありて、重症のものは先づ孰れかと云ふと、殆んど夏季にのみあつて涼しくなると少ないのであります。従つて輕症のものも夏に多いには相違ないのです。其故輕症のものを能く注意して居ることは必要であります。此の病氣の常として先づ便通の度數が殖えるのであります。普通哺乳兒では一日一二回便通がありて、便の性質も黄色い菜の花色であつて、甚い惡臭もなく左程硬くもなく、又左程柔くもないのであります。所が急に便通の度數が一日三四回から多くなると十回十數回にもなるのであります。大便は黄色くなくて青みがかつて、其内に粟粒から米粒大の黄白色の粒々が澤山に混つて居りまして、臭ひも厭な不快なる一種の鼻を突く樣になりまして、粥の樣に柔になつて參ります。激くなると水瀉樣に出ることもあります。小兒の氣分も稍〻優れなくなつてくる、併し玩具などを弄ぶのは平素に變らない。輕度の熱の出てくることが多くて先づ三十七度五分から八度位の體溫になり易ふ御座います。そうなつてくると機嫌が惡くなる。焦れてくる、能く啼く、玩具にも厭つぽくなつて來て無暗と泣く、泣くから母親は小兒の啼泣に對する第一の武器である乳房を口に給ふ。必竟、時間も不正確に只無暗と母乳を飲ませる。甚しきは種々の菓子類を與る、まだ甚しくなると鹽煎餅などをやる、斯ふ云ふ不養生の爲めに、可憐にも小兒の胃腸ま益々掻き廻されて、病氣は益々重くなる一方であります。本病の本態として消化が惡るくなるから食慾も減退する、小兒は餘り乳を要求しなくなる、平素なら普通は乳房に十分乃至十五分間位吸著くと小兒自身から自然に乳房を離すものでありますが、此病氣になるとそう長くは吸はない。又大抵夜間の睡眠も不完全になつて參りまして、屢〻眠を醒ましては啼泣する、併し極輕度のものでは安眠し得るのであります。睡眠の不完全になるのは腹痛の爲めもありましようし、何處となく精神の不安となる爲めもありましようし、熱の爲めでもあらふし、

色々の原因で起すのであります。又能く氣の付く方なれば尿量の減少が氣付きます、一日の放尿の回數が減じて一日三四回にもなつて參りますことが多ふ御座います。併し輕いものには多大した影響はありませぬ。

以上申上げました徴候があれば消化不良症ではあるまいかと想像し得るのであります。併し便通の回數の多い位では、普通大抵の母親方は莫大した事はないと心得られて、賣藥であるとか、其外色々の姑息療法に依られる方が少なくないのであります。是迄申し上げたのは、輕症の場合でありまするけれども輕度のものでも養生次第では隨分重くなるのでありますから、手遅れしない樣に、成るべく早く醫師に依賴する外はないのであります。又假令重くはならないにしても、慢性になり易いのであります。慢性になると、全快る迄には餘程の時日も費るし、又家庭内では、手當てが非常に六かしい、此の必要なる消化器が侵されると、身體の榮養が不足になる。從つて瘠せてくる、甚しくなると所謂小兒痩削症に陷る樣になります。さそうなつてくると、種々の方面から外敵が鋒尖を磨いて攻擊してくる。如かも斯の如き小兒は脆くも敗北するの外はないのです、小兒痩削症のことは何れ時機を換へて御話致しませう。

此病氣に最も罹り易い時期は、哺乳兒で御座います。生長した後に罹るのは哺乳兒に比較するとずつと少ない、哺乳兒でも母乳でなくて人工榮養に依るものに多いのであります。然らば此の病氣は什麼して起るかと云ふことを御話し致しませう。そうすれば云はば此病氣の豫防法は其等の原因に注意すれば佳い理由になるのであります。所が此の必要なる此の困難なる問題は、尙ほ暗黑で御座いまして一定の說はないのであります。然し色々の原因が綜合して居るのであらうと思はれます。母乳を飮ませる量が多過ぎるのは一原因であります。一體小兒には哺乳期と云ふ期間がありまして生後二日目位から約八九ケ月乃至一年一二ケ月間位は只乳のみで養育するの

であります。其の間の小兒をば乳哺兒と申します。其の哺乳兒の飲量は日數又は月數によりて一定して居ります。又身體の發育と共に增量して行かなければなりませぬ。又飲ませる間の時間も加減してやらねばなりませぬ。然し飲量は左に右として間をおく時間を二時間半なり三時間なり規則正しく與ることが普通一般に行はれて居られない樣に見受けられるのであります。殊に下等の社會であり加ふるに母親の教育の不完全なる場合に於ては、中々守り難い樣であります、例へば勞働する女、又は一定の時間內勤める婦人方では時間通りに與る事は出來難い。其れよりは寧ろ麵麭の要求に汲々として急しい。是れはまだしも、下層の社會でなくて中流以上の家庭であり乍ら育兒の思想に乏しい點からして守られない方もありましよう。此病氣で熱があると殊更口が渴する、其外氣分も惡い爲めに能く啼く、此啼泣を以て乳を求めるのである空腹な爲めであると心得て、泣く度每に乳を給る事もありましようが是れは甚しい考へ違ひと云はねばなりませぬ。

又乳も人乳であれば其の濃度に心配することはないが、牛乳又は練乳を給與へるときは、其生長の時期時期で濃度を變更せねばならぬ。然るに淡過ぎると榮養が不完全になるし濃過ぎると又消化器を害する樣になります、故に其の濃度は小兒の榮養狀態と生後日數等から割り出して一定してやらねばなりませぬ。母乳では這麼心配は一寸もないのであります。凡て胃の中には胃液とて一定の消化液が胃壁から分泌される、其の分泌液は今注ぎ込まれた牛乳を一生懸命に消化させる、消化したものは直ちに腸管の方へ運ばれるのであります。然るに無暗に乳を注ぎ込むと消化液は不足であるから、不充分に消化されたものが腸管に送られると腸の神經筋肉も持て餘して腸管の蠕動運動を盛に起して腹痛を起したり下痢を起したりして本病を起します。要するに過食は惡いのであります。又食物の變質したものが惡ふ御座います。母乳又は乳母の乳は例へば酒精又は其外の

有害の毒素を食ると之が乳中に含有せられて、小兒胃腸障碍の原因となることがあります。又牛乳も同樣に牛を飼養する食料の爲めに變質して有害のものを含有することもあります。又牛乳は腐敗し易いものであります。牛乳の消毒が不完全であれば空氣中から數千萬の黴菌が牛乳一瓶の中に這入りまするから消毒しないで長く空氣に放置しますると間違ひなく腐敗致します。殊に暖い時候では一寸も油斷が出來ませぬ。其故近來は用心深い家庭では、一定の熱氣消毒を行ふて、寒冷な所に貯藏して之れを飲ます樣に心掛けられる方が段々殖えて參りました樣であります、之れに反して牛乳を大鍋か何かで煮沸させた所で、甚だ不完全極つた消毒法と云はねばなりませぬ。何れ是等の事に就きては後日御話致しまする時期がありましよう。腐敗した牛乳は臭も味も變つて居まするし、又成分が分解して凝固しまするが、腐敗の初期では未だ、其等の事が能く區別が付き難ふ御座います。

又乳牛中に一種の腸加答兒的の流行病が傳播して、多數の仔は之れに罹る事があります。那麼時機には之れを飲む小兒は犯され易ふ御座ります。之れは一種の黴菌による流行病であります。其故牛乳の性質の可否は大に注目を値するのであります。

又或大家の如きは此病氣は一種の傳染病であると申される樣になりまして、つまり一種の黴菌が原因をするのであると云ふ說であります。此の傳染病と云ふ說は有力であります。

次に重症消化不良症に就いて申上げましよう。重症となると輕症の時の徵候以外に種々と外の症狀がまして參ります。大便は粘液の混じつた泡立つた、色は黃色く又は茶褐色になりまして、殆んど水瀉樣であつて一種の鼻を突く樣な臭が致します。便通の回數も增して一日七八回から十回十數回にもなりまして、一回の量は極少量宛であります。扨て茲に最も懼るべきは嘔吐であります。乳を飲むだ後白色の凝固した、恰好豆腐を碎いた樣な小片と粘液の混つた

ものを吐き出す樣になると、其れは餘程危險な徴候であります。併し素人方では一二回の嘔吐があつたとて之れには一向に平氣で居られる方が多い樣に見受けられます。嘔吐が何故危險の驗であるかと云ふに第一食物を胃が受け付けなくなるのでありますから、榮養物を口から與へる事が出來ない、只管衰弱瘦肉を待つの外はない。つまり手が付けられなくなるのであります。又此病氣では嘔吐が初まる頃には既う餘程外に一般の病勢が重くなつて參りまして中毒症狀も劇烈になつて居るのであります。嘔吐が劇しくなると乳を吸ふ度每に吐く樣になります。そうなると口から一切食物を給與る事が出來なくなります。從つて口から投藥することも出來なくなる。其故、私共の方では嘔吐を一番に恐れて居ります。又嘔吐のある患兒は既う助からない者が多う御座います。一言添へておきますが、玆に申しまする嘔吐は消化不良症のときのでありまして、其外に嘔吐のある病氣は澤山ありまするから、嘔吐があれば此の病氣であると考違へられては困るのであります。又時々腹が鳴るし、腹に手を觸れると腹痛のある爲めに甚く啼くのが普通であります。又隨分劇しい熱が起きる、三十九度から四十度にもなる甚しきは四十一度になつた事もありました。患兒は隨分苦悶する呼吸使ひは忙しくなる。體重は甚しく減少して、日に日に瘦せる。顏色は甚しく憔悴して眼に光りなく朦朧として、口唇から舌はから〳〵に乾燥する。又時々手足に痙攣が起つて、容貌は惘然として來て、玩具を戲弄そうこともせず、如何なる音を聞いても知らない狀態である。小便の回數も餘程減つて來て、一日二三回から、甚しくなると一回位に止まることもある。渴は隨分劇しいから、斯ふなつて來ても、茶なり、湯なり、能く飮みます。乳でも能く飮みます。これは食慾があつて飮むのではなくて、全く渴の爲めであります。然るに、それは能く素人方に間違へられて、母親は、これを乳の不足と心得て、幾度でも乳を與へる、益々胃腸を傷めるのでありま

す。此の間違ひは能くありまして、患兒の容態の輕からざることを話すと、母親は、能くそれでも、乳は如何程でも飲むと云つて、なか〳〵信じられない方もあります。

斯く病勢が進むで來ては、十中八九迄は助かりませぬ。如何に充分の手當を施しても、大抵の場合、助かり難う御座います。此時に及んで、手遅れであると、後悔しても、もう追つ付かない。大抵醫師の診察を乞はれるときに、病氣は餘程進むで居るときが多う御座います。これ一つには、病氣が急性であつて、進行の早いのと、一つには小兒の嘔吐下痢位の事は、豈夫と輕視されて、賣藥なぞで濟まさうとなさるからでありませう。此れが第一の危險を招く原因となるのであります。普通よりも大便が軟かくて回數の多い頃には、一日も早く醫師に賴まれたならば、大抵は、適當の療法の下には、癒るものであります。併し療法を一歩誤ると治癒は豫期し難う御座います。進むで、體溫は高くなり、嘔吐もあり、容貌も朦朧として居るときには、餘程嚴重の療法でも最う助かり難いのであります。

此の病氣の手當は、家庭の多大な注意と、醫藥とが相俟つて、始めて效を奏するのであつて、醫師にのみ賴り、醫藥に重きを置かれ過ぎて、藥丈けで治るものと考へられては、間違ひであります、これは一般の療法に通じて、同一であります。醫藥も成程必要には違ひありませぬが、同時に家庭の方は、食物の事、室の事、空氣の流通の事、光線の事、凡て萬般の事皆醫の命に從はれて、始めて藥の效力が顯はれるのであります。宜加減の姑息療法に依らるゝことなく、直に醫に賴まれて、重患に陷らない樣に心掛けねばなりませぬ。一般に世間では、醫藥にのみ重きをおかれる結果、藥丈けは、醫の命令通りに與へられるが、食餌の方は、輕視され易い傾がありまして、醫の定めた量よりも多量に與へられる樣に見受けます。殊に消化器の病氣では、過食は大禁物でありますから、成るべく少量に〳〵に與へるのであ

ります、所が頑是なき小兒の方では、甚く煩請る、煩さく啼く、斯うなつてくると、傍で看護される方は、人情に絆されて、辛抱し切れなくなると云ふ風になつて、不知規定を破りたくなります。是が病氣に取つては、甚だ宜しくない。醫の方でも、良結果を視るべき筈なのに、一向に快くならないと思ふ、醫に取つては、大變な迷惑であります。又此の病の癒り掛かつた頃は、太く空腹に感ずるものでありますから、健康の時よりも、一層に食慾が増す、此時には、兎角醫の規定を破りたくなるのであります、折角治つたものを痾へす事のない樣にしたいものです。

其外治療上に就いての御注意はありますが、兎に角醫の命に遵ふて居られる事が、治療法の第一方針であります。

なぜ壽命に長短あるか？（承前）
又死があるか。

醫學士　B. F. 生

A　種屬と個人との關係

人類社會の一員である吾々が、今自己と云ふ立場から云ふなら、自分以外の人々は皆、體外にある所の四圍の境遇を作つてゐる。吾々は自己以外の人々あるがために、死なければならない樣になつたのである。死なければならない丈けでなく、生れなければならない樣になつたのである。

今、表面的に人類社會を觀察すると、自然は、個人個人の利害を顧みて呉れない、天は個人の勝手を通さない。人類社會の利害に味方して居る。人類の利害關係から打算して、個人々々の壽命を極めた。元來、個人の利害と、人類の利害とは相容れない。利己主義は吾々人類社會に危害を來すから、社會は斯んな我利々々坊主を擯斥して止まない、尤もな事で

ある、之が實に天道である。吾々が生存の目的（所謂人生の目的にあらず）を果して、モハヤ人類に不必要の年齢に達すれば、自然は吾々を拉し去るのである、無言で、しかし非常な權威を以て、社會の外へ奪ひ去るのである。頭は禿げ、目は盲し、耳は聾し、口は唖し、腰は梓の弓となる、こんな祖父母、曾祖父母、曾々祖父母……が一家の中に、滿ち溢れて居るとしたら、どうであらうか!? 所狹き迄老耄人ばかり寢轉んでゐて、僅か數人が若くて働らくとする。いくら働らいた所で、どうして全家族に十分のパンを供給する事ができよう。皆んなが、枕並べて餓死する外ないのである。で見ると、人が生存の目的を達した後で、死ぬるは結局人類の爲めである。個人が犧牲となつたのである、昔吾々の爲め犧牲となつてくれた親の恩を、子孫に返すのである。祖先の死あるが故に吾々に生がある。吾々の死あるが故に子孫に生がある。人類の爲め吾々が死ぬると云ふものゝその實これが又吾々の生きるためであつたのである。實に、造化の妙、人の知らざる所に及んで吾々讃美驚歎の外はない。人類を作つて呉れた自然は、その自ら作つた人類が滅亡すると云ふ事は忍び得ないのであらう。個人々々の壽命を、人類に最も好都合に定めて、人類を庇護して呉れるのである。尙ほこれ等の事、進化論で云ふ自然陶汰の事を、知つてゐる方々は冗長に流るゝので、今茲では贅しない事として、次には

後繼者を作る事、生物は何によらず、その種屬を繼持して行くために、誰れ彼れを論せず、是非共後繼者を作る義務を負はされてゐる。生物は一方で絕へず死んで行くのだから、その他方では後繼者を作つて補はなければならない。此の義務を果した後は、犬ならば犬社會、人間なら人間社會に取り、價値を失ふのである、何にもならない邪魔物は存在の資格を失つたのである。で休息郞はち死を與へらるゝのである。今單に後繼者と云つたが、產み付けた丈けでモウ立派な獨立の後繼者になるものさ、まだ獨立自

活する事のできない、保護を要するもの、榮養を求むるもの、敎育を俟つものがある。敎育を俟つて初めて生存競爭場裏に出で逐鹿し得るに至るのは人類、獸類、鳥類などである。子孫を敎育する必要のないもの、例へば昆蟲などは、生殖が終はればすぐ死ぬる、子孫を保護、敎育する必要のあるものは、その義務を終る迄は、生活するの權利を持て居る。子孫が最早や保護敎育を要しなくなつて、立派に獨立し得るに至れば、初めて、生存の資格を失ふのである。だから

生命の終點は完全な後繼者を育て終つた時である

此の時を境に自然の保護は停止され、野原に拋げ出されて、冥土の使が連れて行くに任かせてある。昔

冥土から迎ひの鬼が來たならば
九十九迄は留守と答へよ。

など〻、呑氣な、勝手次第な事を歌つた人があるがそうは行かぬらしい。電車に乘つて品川か靑山かの終點へ來た樣なもので電車の中でいつまでも骨折りなしに運んで貰う譯には行かぬ、下ろされて、客が各自勝手に歩るかされるのである。人間も子供の敎育が終つたら、それが終點だから、それから後は自然の庇護なしに、進まねばならぬ。それで今、壽命を左の式で表はす事ができる。

(壽命)＝(成年となる迄に要する期間)＋(生殖期間)＋(子供敎育に要する期間)×(X)

で(X)は人によつて違ひ、○の人もあれば四十五十の人もある。今三期間の内で、生殖期間と子供敎育に要する期間とを述べて見よう。此の二つの期間が長いもの程長命であり、短がいもの程短命な事となる。生殖の目的は種屬保存のためであるから、種屬保存に必要な子供數ができる迄、生殖期間が續いてゐるのである。境遇によつて、育兒し難いと易いとがある。難ければ生殖期間の長い必要があり、易ければ短かくて濟む。生殖期間の長いもの程壽命も長い。で見れば、壽命と境遇とは重大な關係をその間に有して居る。境遇と云つても、之れに關係して居

るのは主として障碍である。

B　壽命と障碍との關係

どんな動物でも偶然起る種々な障碍に際會しないものはない。一體、物體は物理學の原則によつて必らずや一定の空間を占領して居る。此の空間には必らず之れを圍んでゐる隣りがある。吾人は身體と云ふ物體を持つて居る以上は必らず何かある物に接觸してゐる。此の周圍は絶へず變化しつゝある、その變化が常に吾々を刺戟して、種々の感覺や、運動、榮養、萬般の生活現象を起すのである。周圍の變化なければ吾々が生活反應は起きない。で、吾々此の肉體で社會に生存して居る以上はドウシテモ此の刺戟を受けざるを得ない、此刺戟を避けんとならば『死』より外は無いであろう、山も森も幽谷も之れを避くる譯に行かない。此の避くべからざる刺戟が過大過小であれば、生活機能に危害を與へる事になる。吾吾は絶へず此の危害を蒙りつゝあるのである。偶々此の危害が大であると、吾人は此れを『偶然の危害』と云ふ、然し吾々此の激烈な生存競爭場裏に立つてゐる者は誰れでも、飢餓、凍寒、外敵、猛獸、寄生蟲、傳染病その他の病氣に侵されないものはない。偶然來る危害である、然し此の偶然の危害は規則的に誰れにでも來るではないか、此の爲めに遂に皆なが死に至るではないか、偶然の死と、人は云へど、その實は普通の規則的死である、その確證として、非常に老ひぼれて後何病と云ふ病氣でもなしに眠つて仕舞ふと云ふ樣な、眞の老死する人は稀らしい、無いと云つてもよい。又後に云ふ如く、老死もやはり小さい偶然の危害の重なつたものである。

危害が多い爲め子供の發育の惡るい動物は子供を澤山作る必要がある、澤山の子を產むには長くかゝる長く生きてゐれば障碍も多い、すると益々長生きする必要が起る、外見恰も恁うである。が實際は次の原則に基いてゐる『自然は生殖期を極力短縮せしめて、外界の危害を避けしむ』。此の原則は一見不合理の觀あるも、實例はその正確な事を明白に證明し

てゐる。

今左に右の原則を證明する爲め二つの例を掲げて參考にして見よう。

實例一、鳥類

鳥類は一般に命が長い、小さくて活潑だから早く死にさうであるが四圍の狀況は彼れ等を隨分長生きさすのである。

軒端で絶へず囀つてゐる小鳥でも十年は生てゐる。鶯、白頭翁は十八年。ある人は雌雄の雁が同じ巢に二十年棲んでゐたのを見たと云つてゐる。多分雁は百年は生きると云ふ事である。鄕公は同じ森で三十二年間鳴いてゐたのがある。猛禽類はまだ長い。鷲などでは人間が數代變つて行くのを空で見てゐると云ふのがある。獨逸のある動物園である鷹は百十八年生きてゐた。鸚鵡も隨分長い、印度人の話に、アー、フォン、フンボルトのアツール鸚鵡は、古く已に滅亡したアツール人の言葉を眞似する、だからアツール語を知らない吾々にはそれを聞き分け得ないと云ふ事である、そんな長生するのもあると見える。

こんなに鳥は長生きするが、之れでも自然は生殖期を極力短縮せしめるのか、と疑はれる樣である。がよく研究して見ればやはり原則と全然符合してゐる。今その理由を說明せう。

第一鳥は發育惡るく、外敵が多く、第二に空中生活は生殖に不便である。此の二つは生殖期間の勢ひ長からざるを得ざるに至らしめるのである。鳥の多くは唯一個の卵を產んで、それを孵化する、(海燕、夏鶏、海雀等の如に)しかも一年に一回である、僅か一年に一羽の雛しか生れない。猛禽類、鳩、錦雀(又蜂雀)は一度に卵を二個、僅か家鶏、雉の類が一度に二十個位の卵を產む。

鳥の此の僅で大切な卵は幾多の危難に襲はれる。今鷲の樣な獰猛で、且つ一度び大空に鼓翼けば山野に跋扈せる猛獸をすら震駭せしめると云ふ鷲でも、彼れが一度び山巓の眩暈催す絶壁に巢う時は、忽ち外敵に襲擊される、野獸等は勿論近づくすべないが、

夜霜、冬雪は彼れに取つて大敵である、雪白く降り積つた高嶺であるから卵が凍死する事がある、又大雪になると親は餌を拾ふ事ができないから雛が餓死して仕終う事がある。鷲に限らず鳥の卵は絶へずイタチ、黄鼠、猫などにつけ狙らはれる。又時候の變はり目に、海山遠く越へて歸る鳥もある、その長い旅の途中で雛の弱いのは谷底や海中へ落ちて死んで仕舞う。その外鳥の遭遇する危難は數へ切れない程澤山ある。

以上云つた危難を免れて幸ひに發育する雛は卵の幾割あるか、細かい所は調査し難いが、ダーピン、ワーレースの說を讀んで見ると、大體恁うである『今でも昔でも未來でも(鷲なら鷲の)總數の上には凡そ變りないものである』。(五百年千年と云ふ長年月の後は別である)例へば鷲は地球上に明治四十二年に十萬羽居たとすれば、明治百年迄にはその內死ぬるのと生れて來るのとがあるから差引同じ事となつてやはり明治百年にも總羽數は同じく十萬羽居ると云ふ說である。で今鷲の壽命を平均六十年とする、滿十歲で親となるものとせば、五十ケ年の間產卵する每年雌雄が二個產むから一生涯で百個、ダーピン說によつて此百の中、二羽丈けしか育たない、他の九十八個は霜雪飢餓外敵病氣等で死ぬる、卽はち、僅かに二分育つて九割八分は死ぬる。で二羽の親鷲は五十ケ年かゝらなければ生存の目的を果し、義務を終へない譯である。斯く、災難多く、外敵しげきものは長命である、そうして後繼者が二羽出來る普通の年齡となつたら、之れ以上は生きる事を許されない、鷲は五十年が生殖期間の最短である、それより短くては鷲の數は地球上に減少するから、五十年は生きる、そして五十年に最短縮されてある。鳥の話の終はりに加へて、獨逸禽鳥學會の報告を紹介して置く。

鳥類

小啼鳥(囀鳥又は歌鳥)　八乃至十八年

鷲(籠中でも)　八ケ年

カナリヤ(籠中でも)　十二乃至十五年
鴉(同)　百年
鵞鳥(同)　百年以上
杜鵑　三十二ヶ年以上
家鶏　十乃至二十ヶ年
鳩　十ヶ年
鷲(ウインナにて一七一九年死せしもの)　百〇四年
鷹　百六十二年
鵠　三百年　(ナウマン氏)(?)

哺乳類では
馬、熊　五十ヶ年
獅子　三十五年(!)
兎　十年
鼠　六年

鷲は重くて、一貫四百目、兎の重いの位である、しかし兎の十倍以上生きる。何故か？　兎や鼠は鼠算でどん／＼繁殖してゆく、早く生存の目的を果す、だから鳥なんどよりズット早く死ぬる。且つ鳥は卵時代から外敵に襲はるゝが、哺乳類は胎生である爲め僅かの流産などを除き、子宮内で安々と育つから、鳥類に比較べて、早く死んでよいのである。體の生理的、組織的に云ふなら、兎も鳥も壽命は同じ筈であるけれども、生存の目的を早く終はるか終らないか、によつて壽命に大差が起る。而して生存の目的を果す遅速は外界の境遇が然らしめるのであるから四圍の境遇は壽命を長くも短かくも自由勝手にするものと見る事ができる。尚ほ此の關係を一層明確ならしむるものは昆蟲である。

(以下次號)

妊娠産褥の衛生(承前)

H. K. 生

次に妊婦の便通でありますが、此れは直腸が子宮の爲めに壓迫さるゝ爲に自然便秘に傾きます、此は妊婦の苦痛を増すものでありますから除かねばなりま

せぬ、と云つて下痢を起しても困ります、通じをつけるに最も都合のよいものは牛乳であります、又朝食事前に一杯の水を飲むのもよい方法であります、又水分の多い果物を食ふ事も便通を促します、此等の方法でも便通がなかつたならば、グリセリン坐薬が先づ適當なものでせう、併しあまり心持ちの宜いものではありません、内服薬としては、カスカラサグラダ錠が便利であります、一回一粒か二粒づゝ服用するものであります、又

硫酸苦土　一〇・〇
稀鹽酸　一・〇
苦味丁幾　一・〇
單舎　八・〇
水　一〇〇・〇
右一日三回分服

又は

蓖麻子油　一五・〇
右一回に服用

も效があります、強い下剤、例へば莉刺巴の様なものは用ゐてはなりません。

尿の注意も亦怠つてはなりません、此注意は主に醫者のする事でありますが、膀胱が子宮の爲め壓迫されたる時に尿が絶えず漏れて困る事があります、此の爲めに陰部から褥等が不潔になつて、姙婦は大に困難いたします、此時には殊に淸潔に注意して、尿は醫者に頼んで取つて貰ふ様にせねばなりません。

乳房の衛生も亦肝要であります、乳房は姙娠の凡そ二ヶ月の終頃から漸々と膨れて參りまして、時々ちくちくと痛み、透明な或は少し白味がかつた液を分泌いたします、此ものは乳とは少し異つて居りまして、荒乳と申し、味も鹽分が強いものであります、姙娠中は常に此膨れ出した乳房をいたわらねばなりません。そして初めての產の人には乳首が小さくて小供の吸ふに不便なものが多いものでありますからなるべく之れを引き延ばす様に、時々自分で引き出すのは宜い事であります、痛みがはげしかつたなら

ば、綿を輕くあて、堪えられなかつたなら百倍位の鉛糖水で罨法する時は大抵なほります、決して乳房をおしつけたりしてはなりません。

若し妊娠する前から乳を飲まして居つたならば、其は止めなければなりません、妊娠中乳を飲ませる事は飲む子にも胎兒にも害になります。

精神の修養は妊娠中寸時も忽せにしてはなりません、懷妊中の母の心の持ち樣で子供の賢愚、性質の良しあしを支配いたします、妊娠中母の不行跡、邪心は凡て其胎兒に傳はり、生れた子は放蕩に流れ、不道德を何とも思はぬものとなるものであります、母が妊娠中淫亂であれば其子も亦淫亂で、大酒をすると其子も酒飲みとなり、又は癈愚となります、古希臘では妊娠中は謹愼に身を保ち、凡ての邪惡から遠ざかる爲めに、其室内に清き女神の裸身像を安置して、朝夕其の神の御前に奉仕したと云ふ事でありますが、大に宜い事だらうと思ひます。孔子の目に非禮の物を見ず、耳に非禮の言を聞かずと仰せられた言葉が最も適切に感せられます。

婦人は一體に物に感じ易く、些少の事にも動き易いものでありますが、殊に妊娠中は其感動し易い事が甚だしいものであります、所が妊娠中の強い感動は母子兩方に對し有害であります、はげしき恐怖、驚愕等の爲めに流産、或は墮胎した例もあります、假令其迄でなくとも、過度の恐怖、喜怒、哀樂、驚愕其他凡ての精神の興奮は妊婦の經過並びにお産及び産褥の經過に不良の影響を與へ、色々の身體的障碍を生じ、又精神病の原因となります、でありますから妊婦自身が謹しむのは勿論の事、家族其他周圍の人も注意して妊婦の精神を興奮させる樣な事を避ける樣つとめなければなりません。

憂慮も亦大に害を與へます、朝夕鬱々として物思にふける事は健康を害し、從つて其胎兒の發育を不充分にいたします、甚だしく鬱ぎ込む樣になりましては、其精神狀態を病的にして、眞正のヒステリーや精神病を起す原因となります、婦人の發狂者中には

妊娠及び産褥の不注意より起るものが非常に多いものである事は忘る可からざる事であります、是等の精神病者は大抵妊娠中の憂鬱及精神興奮より起るものであります。

要するに妊娠中は凡て精神感動をさけ、心懸を正しく、邪な心を起さぬ様・竝びに其言行を謹む事が肝心であります。

悪疽に對する心懸も亦必用であります、悪疽とは諸姉の御存じの通り、妊娠二ヶ月目の頃から起つて來る種々の障碍でありますが、其輕重は人によりて相違がありまして、或は輕く殆んど知らぬものもあります・或は非常に重くて・大病の人の様に苦悩する人もあります、甚だしいものになりましては嘔吐が如何にしても止まらない爲、遂に斃るゝ人もあります、其原因や徴候は略しまして、其手當は如何したら宜しいか、素人の出來る範圍内で注意すべき事共を御話しいたしておきませう、申すまでもなく苦痛が募つて來たならば醫者の手に賴らなければなりません。

生唾の出る事は『つはり』と云ふ言葉の出た本家本元でありますが、此は非常に心持ちの悪いものでありまして、又容易には止りません、此れには二百倍位の明礬水の含嗽が最も簡單で、又心持の宜いものであります、甚しいものは、硫酸アトロピンと云ふものを用ゐ、又は電氣療法を施しますが之れは素人業には參りません。

之れに次て苦しいのは、嘔吐或は吐き氣でありまして、多くの人は朝空腹の時に吐氣を催し、又は食事する毎に吐氣を催します、之れには好い療法がありません、食物に注意することが第一に肝要であります、朝吐氣を催す人には夕食を減じ、夜間の食物を禁ずる事は多少效があります、又一回の食量を少なくし一日に數回(五六回)食事するのも良法であります、其他には便通をよくし、新鮮の空氣を呼吸し、適度の運動をなす事も嘔吐を少なくする一法であります、嘔吐を止める藥は澤山ありますが、それは醫

者に頂いた方が安全で御座いませうから、此處では態と略します。

其他の惡阻の種々の徵候は皆前に申した衞生法で大に輕快いたします、此時の事は醫者と御相談なさるるのが確かな道であります。

其他妊娠中に心懸くべき事は妊娠中の子宮出血及び腹痛であります、妊娠中には月經は閉止いたしますから、產の始まる迄は少しも出血する事は御座いません、唯例外として極く稀には最初の一ヶ月の終りには少量の月經の樣なものを見る事があります、其他胎兒に變化があつた時の外は決して子宮より出血する事がありません、でありますから妊娠中の子宮出血は、何時でも墮胎或は流產の前徵と認めなければなりません。

下腹部の痛みも亦注意を拂はねばならぬものでありまして、特にそれが時をきつて發作的にやつて來るものでありましたならば、それは疑もなく流產又は墮胎の前徵であります、斯樣なわけでありますから妊娠中此等の病狀が起つたならば直ぐ產科醫或は產婆に相談する必要があります。

我々が此は妊娠であると確かに斷定し得るのは、少なくも三ヶ月以上のものでありまして、それ以前には唯妊娠であらうと想像する事が出來るだけであります、それを三ヶ月前に斷言し得ると云ふ醫者或は產婆がありましたなら、其は現今の產科學を知らぬものと云はねばなりません、して見ると三ヶ月迄は妊婦として取り扱はれぬ事となります、所が惡阻も此二三ヶ月に最も強く、又流產も此頃に最も多いものでありますから、以上申しました衞生法も此時代に最も必用なものと云はねばなりません、それで月經が一ヶ月以上もなく、惡阻らしい病狀が起つて參りましたならば、先づ妊娠ではないかと云ふ疑をおき、醫者及產婆の診察を受け、自分では十二分の注意を以て衞生を守る事が肝要だろうと存じます。

さて彌々妊娠と確定したならば勿論、片時も自分は一人の新しい人間を腹の中に抱いて居るものである

と云ふ事を忘れず、注意に注意して、其身並びに其子供の健全を謀らねばなりません、そして事ある日の用心に一人の産科醫と一人の産婆とに時々診察をして貰ふのは、安全な道を行く樣なものでありませう。

九ヶ月の終りから十ヶ月目になりましてからは、腹の大きさの爲め、一は醜くもあり一は運動も困難となりますから、自然一室に閉ぢ籠る樣になりますが此時も猶庭園の散歩、室内の運動等により適度の運動をする樣勉むべきであります、そして産の期が近づいて參りますから、其用意もしておかねばなりません、斯くの如くしていよ／＼お産にかゝるのであります。

（以下次號）

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（二九）活ける家の賊

『その物につきて、その物を費やし害のふもの、數を知らずあり、身に虱あり、家にねずみあり、國に盜人あり云々』とは雙が岡の法師の道破した所でありますが、

酒類は實に活ける家の賊

であつて、其健康を盜み去ることの誠に少なからぬ曲者であります。酒とは醱酵作用によりて生る所のアルコールを含んでゐる飲料で、米の醱酵によりて出來るのが日本酒、葡萄の汁の醱酵によりて出來るのが葡萄酒、大麥又は小麥の醱酵によりて出來るのがビールであります。醱酵液を沸騰たせると其うちのアルコールが蒸氣となつて發つ、此蒸氣を再び冷やして液となし、取り集めたものがブランデー酒であります。ウヰスキーと云ふ酒も種々の穀類を醱酵させ、同樣に其蒸氣を發たせて冷却さして製造たものであります。此蒸氣を發たせて冷却させる方法を

蒸餾作用

と云ひ、米や麥を醱酵させる方法を

醱酵作用

と云ふのであります。醱酵作用とは釀母と云ふ小さな植物の寄生によつて起るもので、此釀母が生活繁殖して行く間に炭酸瓦斯とアルコールとの二つの物質をつくる、然るに炭酸瓦斯は次第々々に空氣中に發散して仕舞ふが、アルコールは液の中に殘つてゐて酒をつくる、液の中のアルコールが餘り多量になれば、これを造り出した釀母も生存できなくなつて死んで仕舞ふ。即ちアルコールとは釀母と云ふ植物細胞の醱酵生產物で、自然界には決してアルコール其儘のものは存在して居らぬのであります。

アルコールを造り出した釀母にさへ有害であるべきものが、他の植物にも有害であり、動物にも有害であり、人類にも有害であるべきは云ふ迄もありませぬ。醱酵作用の起る時には米穀及び葡萄の中に含まれてゐる榮養分が凡て釀母から喰ひ盡くされ、其代りに生命を縮むる有害なアルコールが殘るのであります。そも／＼アルコールとは今を距ること六百年前、或る賢明なアラビヤ人から發見されたもので、之れを飮んだ人は醉ひ醉ふて亂暴狼藉をはたらくこと宛然惡魔のやうであるからアルコール Al Ghole と命名したのであつて

　アルコールとはアラビヤ語で惡靈と云ふ意味

だそうであります。東西何れの國々でも同じやうな物語りがありますが、當時のアラビヤ人も『何うかして不死の靈藥を求めたい』『永久の若やぎを保つ長命術もがな』と探し步いたもので、計らずアルコールを飮むに及んで『これぞ生命の水』Aqua vitae であると絕叫した。が、これはしばしの迷ひであつて、其後ち萬人から

　『生命の水』と思ふたは實は『死の水』である

と云ふことが確認された。誠やアルコールは惡靈でもあり、死の水でもあつて、我々衞生的生活を逆るものゝ仇敵でもあります。試に一オンスのアルコール

を飢餓えてゐる犬に飲ませて見ると、犬は直に死んで仕舞ふ。ビールのアルコール成分は少ないが胃の消化を妨ぐること甚だしく、ブランデー、ウイスキーなどの強きアルコール飲料になると全く消化作用を止めて仕舞ふ

アルコールは食物では無い

食物であるかのやうに見せかけてゐるが食物では無い、食物と云へば身體細胞の作用によりて身體の建築材料とならなければならぬ、アルコールは決して身體の經濟を維持する輔けとなりませぬ。啻にならない計りでなく、他の食物の消化を妨げ、次第々々に身體を病魔の途に誘つて行く。普通の食物であれば體内へ入りて全く身體の一成分となる、が、アルコールは恰も罪人盗賊が監獄に入り徴治監に入つても毫も改悛せぬやうに、體内へ入つても絶えず元のアルコールとして血管を傳つて循環る。其間に血液からは水分を、血球からは酸素を盗み、肝臟へは所要以上の血液を集めて盛んに健康を破壞する

アルコールは血管壁の神經を痲痺する

故に血管の縮りがなくなり、血液の循環が變調になる。酒を飲んで直ぐに顔色の朱を注ぐやうになるのは、即ち血管の縮めくゝりの失くなつた證據で、換言れば身體内部にあるべき血液が一度に皮膚に流れ出したのであります。酒を飲むこと度び／＼で、顔色の朱を注ぐことも頻繁であれば、遂に顔の血管も縮りの失くなつた儘となり、顔の色も亦た絶えず紅い儘となつて仕舞ふ。

アルコールは體を暖かくするもので無い

『今日は雪が降つて寒いから』とて酒を飲むのは間違ひである、水に沈みかけたからと云ふて石を抱くやうなものである、益々寒くなるばかり、益々沈む計りであります。前にも云ふた通り酒を飲んだ當座、滿身の血液が皮膚に漲り溢れた時には成程身體がポツとして至極く暖かく心地好く感ずる、が、縮りも

無く口の開ひて居る血管から血液中の熱が絶えず盛んに發散して體溫が少なくなり、今度は反對にヒドク身體が寒くなる。故に寒さに逢つて凍死をする人は、酒を飲まぬ人よりは飲む人に多い。ヨシヤ酒を飲んで一時暖かになつたからと云つて夫れは眞の暖かさで無い、うその、僞りの、見掛け倒しの暖かさであります。蓋し暖かくさるべき所は壁で無く、垣で無く、室內と其中に閉居する人々とであります。

酒を飲んだ當座の暖かさは皮膚の暖かさのみであつて、云はゞ壁の暖かさ、垣の暖かさであります。體內と體內の臟器とは却つて寒さに凍えてゐる。歷史上の事蹟を引照いてアルコールが體を暖かくするもので無いと云ふ一例を示さう。今は昔し西曆一千七百八十六年露國の首相パタンチンが、カタリナ皇后陛下の名を以て一夜盛んに貧民に饗應された事があつた。飲むは、食ふは、歌ふはと云ふ徹宵も冷たくあけて翌朝になつて見ると、驚く可し一萬六千人と云ふ酩酊者は枕を竝べて凍え死にをして居つたと云ふ事であります。ナポレオンがモスコーで一敗地に塗れたのも、寒さ凌ぎに兵士が酒を飲んだのも一因だそうであります。

アルコールは心臟を弱くする

酒を飲んで動悸の高まつてくるのは心臟の強くなつたためでない、心臟の運動を調節する神經の痲痹されたためであります。一つ〳〵の心臟の搏動は普通の時よりも弱く、普通の時よりも不完全であります。飲酒家が熱性病にかゝつた時、醫者の最も心配なのは心臟の力が病勢の衰へる迄持續るか何うかであります。

アルコールは決して元氣を增すもので無い

酒飲みの元氣は空元氣である、平素猫のやうに溫順な人が酒を飲んで勢ひよくなつてくるのも元氣の增したためでない、情を抑へてつゞまやかにすると云ふ精神作用が痲痹されて仕舞ふから、無暗に空威張

りとなり、空元氣となるもので、決して精力の進行でない。『酒飲み半人足』とは能くも穿ち得た言葉であります。飲酒家は力があるやうで無く、仕事が出來るやうで出來ず、長く耐忍できそうで出來ぬものであります。

アルコールは腦神經を麻痺させる

我々が普通の精神狀態を維持して、所謂常識を持つて居るのは、腦の中にある鼓舞作用と制止作用との二つが、互に能く調和して居るためであります。鼓舞作用とは七情の動くまゝに發揚奮興させやうとするもの、制止作用とは之を抑へて中庸を保たせやうとするものであります。心猿意馬の奔逸を縱にさせぬのも此制止作用のあるからであります。然るにアルコールは此制止作用を麻痺して鼓舞作用を思ふ儘に働らかせる、從て酩酊者は自分の心意に出沒去來する諸種の觀念を制止する事が出來ず、醉狀痴態を演じて平然として恥ぢず、言語は亂雜に陷りて呂律著るしく亂れ、全身の筋肉も弛緩して擧止が不規律になるのであります。古來酒を嗜む者は『憂ひを掃ふ玉箒』と云ふ意味で、酒によつてうさつらさを忘れやうとする者が多い。太宰の春臺は大酒家であつたそうなが、大丈夫の世に處するには動ともすれば憂患にかゝる、そこで酒を飲まなければ英氣が撓けて仕舞ふ、故に昔から英雄豪傑は酒を嗜むと放言して居りますが、憂ひを忘れさせると云ふのも亦た一つの麻痺作用で、云はゞ酒は感覺を鈍麻させるものであります。弱く共空威張りをなし、貧しくとも富める如く思ひ、あわれ果かない境遇に沈淪して居つても天上界の愉快を感じ、寒く共暖かく、惡く共善く、步行けないでも活潑であるかの如く思はせるものであります。されば平素は沈著にすまし切つた紳士でも一旦酒に酩酊すると、或は放吟高論し、或は卑猥陋拙で聞くにたへざる醜態を演ずるやうな事が多い。故に苟にも

人格を重んずるものは飲酒しては

ならぬ

酒は人の節操を失くなす、一杯のふるまひ酒に我を忘れて不忠不義の連判に加へらるゝ様な事は其例に乏しくない。アー、ラウベルと云ふ人は近世有數の解剖學の大家であるが、其著腦神經篇の結末に於て實に左の如く絶叫した『終りに臨みて神經健康の保續に就て警告しなければならぬ。

(一)睡眠の不足は到底一日中の神經物質の消費を補ふことが出來ぬ。

(二)生殖關係の注意攝生は神經系統に關與する所が多い、故に之をつゝしまなければならぬ。

(三)アルコールは死體標本の保藏には適當の藥品ではあるが、活ける神經系統に對しては之を破壞させる魔藥であると。

心臟と感情

A　S　生

心臟と申しますのは、どなたも胸に手をあてゝ御覽になりますると、左の乳の邊で、動悸を搏てるのがおわかりになりませう、それが卽ち心臟の働く毎に胸にあたつて響くのであります。靜にして居るときは、一寸外から、わからないやうですが、少し烈しく運動を致しますと、肋骨の間の處で、僅かの部分が、ひよい／＼高くなるのが能く見えます。これが心臟の尖の部分が動いて其處を隆めるのでありまして、心窩の所の出たり引込だりするのも、その響が傳はつて動くのであります。醫師が診察するときに脈を見るでせう、あれはその血管の硬いとか柔いとか、その血管の壁の模樣なども檢査するのですが、主に脈の遲い速い、大きい小さい、強い弱い、その數、その調子の正しい正しくない等を見る、これが卽ち心臟の樣子を知ることになりますので、引いて他の病氣の善惡をも判斷することが出來ますから餘程大切な診察法の一になつて居るので、昔は診察することを脈を取ると一口に云ひ含めた位のことであります。

顳顬の所や、喉頭の兩側の頸の邊に指をあてゝ觸れますする脈も、その他所々に觸れますのも皆同じ心臟から血管に傳はつて來る動悸でありまして、その血管の淺い、卽ち肉の間から出て、皮膚の方に近づいた所でよく觸れられるのであります、それでその强く觸れる所と弱く觸れる所とありますが、それは血管の太い所と細い所、深い所と淺い所などの異でありまして脈の性質は何處で觸れますのも皆同樣であります。さてこれらの脈の起る源である所の心臟は何處に在るのかと申しますと胸の中で、大凡左の乳の所にありまして、その人の拳位の大さのものであります、尤も人によりては右の方に在る人も稀にはないでもありませんが、それは居場所を取違へたもので、間違ひ、つまり畸形と申してよい、而してこの心臟は所謂英語のハートで、その雛形は、まあざつとトランプのハートや、帶止などに出來て居る、あの形でありますが、然し金や銀ではない、餘程厚い肉で出來て居る嚢で、その內は、人間では四つの室に分かれて居て、上の室と下の室との間の所には開いたり、閉ぢたりする戸が附いて居り、又入口と出口とが二づゝあります。次に此れがどんな働をして居るかと申せば、まあ喞筒であります。卽ち絶えず血液をこれから送り出して身體の隅々まで潤ほし又一方の口からこれを吸ひ入れては送り出す、その力は實に非常なものでありまして、而かもこれが夜晝無休業で以て母の胎內から八十年も九十年も、その人の生きて居る間は働き通しで、この心臟が休職した時は、人間の免職、卽ちその人の死だ時でありますが、息が絶えても脈の切れない中は、死で了まつたとは申されません。此の如く生き死にと心臟との關係は密接なものでありますが、これが又直接に感情より影響を蒙りまして、種々その働に變化を來し、反對に又心臟の具合に由て感情に影響を及ぼします。それで昔は、心は心臟に宿て居るものと考へられ、又高尚な感情の記號とせられまして、人の喜び悲み怒りなどの情と心臟との間に關係があると云

ふことは、古くから認められて居たのであります。この心臓といふ文字も既にこれらの意味を表はして居りますが、獨逸語の『ヘルツリッヒ』、即ち『心カラ』何々といふ時の『ヘルツ』も矢張心臓といふことであり、尚ほ愛情は心臓から來るとか、餘り心配をして心臓が破れて死ぬなど申す言葉もありまして、何れも感情と心臓の働きと直接の關係あることを言ひ表はして居るのであります。然しこれは單に想像から來て居るので、別に學問上の價値はないものと考へられました。然るにこれは段々研究致して見ますると、憂に沈んで居る時に、何やら胸に不快な感じを覺え、心配して苦む時に、胸苦しいとか、胸が痛いとか、胸が縮むやうださては、胸に釘を打たれるやうだなど〻云ふ言葉も只の形容詞ではなく、實際然るべき理由があるのであります。この胸と云ふのは、心臓の在る所で、心は亦ムネと訓みます。心臓の破裂して死ぬと云ふことも、實際その例があるのであります。心臓病の人が、何か氣に掛かる事などのある時に、一層ひどく苦むことは、能く醫者の見る所でありまして、心臓病は屢〻その感情に影響致して參ゐります。

憂ひ、怒り、恐れ、その他、心臓に關係のある普通の感情は、顔に現はれては、蒼白となり即ち血の氣がなくなります。斯樣な心の變化は運動神經の中樞に影響致しまして殊に血管の收縮を起すものでありますが、心配の時には、顔の血液が減るばかりでなく、矢張これが亦心臓にも影響することになります。乃はち甚く心配致します時には、動悸が烈しくなり、その調子も狂ひ、又心臓の筋肉に通ふ血液が妨げられて一種の痛を覺えます。これらは、その刺戟が腦の方から心臓に及んで來るのでありますが、これと反對に、心臓の方に障碍があつて、それから腦の方に刺戟を及ぼすことがあります。即ち心臓に痛みがありますると、これと同時に、何やら不安心なやうな、心配の感じが起ります。これは獨り人間のみならず、他の動物でも同樣でありまして、心配

或は畏怖の爲に心臟に故障を起します。例へば叱られさうな時には大の心臟は非常に動悸を高め、平常よりは餘程早くなりまするし、又小鳥を手に握りますると、その恐れて居る間は段々心臟の動悸が高まつて來ることが分かります。斯樣に心配したり、恐れたりする時には、血管が收縮むものであると云ふことが判れば、これと反對に心に喜び樂みのある時には、從つて血管は膨脹れると考へて差支がない譯であります。それで心配の時には胸(心臟)が狹まると云ひ、喜びの時には胸が輕くなる、或は開くなどと云ふ言葉を考へて見ましても、感情と心臟との伸び縮みに深い關係のあることが想像されるのであります。

以上は單に感情と心臟の働との間に、極めて親密の關係があると云ふことを申し上げただけでありますが、これは獨り心臟ばかりではなく、その感情の種類に從つて、大に健康を進め、或は反對に大なる害を來すものであります。即ち不平とか怒憤とか、又悲哀、恐怖などの目出度からぬ心持は、凡て身體の機能を惡くし、甚しい場合には、これを痲痺させることになります。即ち食慾も振はず、從つて消化も惡くなり、血の循りも、妨げられ、一體に身體竝びに精神の働までも衰へて段々弱くなるものでありますが、これに反して、爽快な希望あり、喜悦ある、滿足な心持を保つて居れば、前に申述べたやうな身體の機能は、いよ〳〵昇進して益々健康になる譯であります。然るにその宜敷くない方の原因は、なかなか根強く又長く續くものであることは、心理學上の試驗で明かなことでありますから、我々は出來るだけ憂ひや、悲みや、怒などを拂つて、早く不機嫌を直ほすやうにし、常に心を平にし、勉めて爽快な心を保つやうに致すことは、衛生上最も大切な、理由あることゝ思はれます。これは尤もその人の性質又は境遇等より、なか〳〵六かしいことではありませうが、衛生上此の如く大切なる關係あるものなることを承知致して居りますれば、一方には精神を

修め、心を正しうすることに勉め、延いて身體を健かにするやう、兩々相俟つて完全なる人たらむことを勉めなければなるまいと存じます。

育兒

初秋の小兒病

醫學士　宇都野研

青葉の梢も秋風のおとづれを受けて、更月の花よりも紅となり、搖落の哀も近い未來に逼つてゐる、凡ての生物は季節の影響を受けぬものはない、而してその影響が生理的刺戟の境を脱して病的刺戟となると、生物は病的生活を辿らねばならぬ、小兒は一方に於ては發育の機能の旺盛なるものであるから、病氣の治ることも疾いけれども、他方には未だ抵抗力の少い所から、容易に外界の影響を蒙つて不測の禍を醸すのである、夏の消化器病と冬の呼吸器病とは其兩大關であつて、春と秋とは兩者の過度時代であります、さらば季節に對する我等の作戰計畫は如何と申しますると、小兒を外界の影響から遠けようと爲るのは大間違ひでありまして、如何な刺戟が來ても、夫が生理的刺戟で濟むように小兒の身體を鍛えねばなりませぬ、されば小寒い風が吹くからといふて直に厚著をさせ、殊に股引や足袋などを穿かせるのは甚だ宜敷ありませぬ、へエ北極へ往て來ましたと平氣で居る樣な小兒を作り上げねばなりませぬ。

閑話休題まして愈本題に入りまするが、今日尙はいゝ、いゝ、ちよこ〳〵殘つて居ります消化器病では、主に大腸を冒すもので、赤痢と大腸加答兒とであります、この大腸の病は小腸のもの程には恐くはない、治療が當を得れば大部分は治癒いたしますが、同じ赤痢でも小腸を冒したものは其勢が極めて猖獗でありまして、普通の赤痢便を洩す外に、嘔吐、高熱、煩騷

といふ様な症狀がありまして、躁暴狂の樣になつた小患者は、ベットの上を跳ね廻つて、短時日の間に死の手に救はれるのであります、一旦かゝる病氣にかゝりましては、如何なる名醫も匙を投げます、ただ常日頃母たる者が小兒の年齢に相應する食餌の知識を有し、其選擇に注意して未發に防ぐより外に救濟の途はありませぬ、次に秋風の利劍は木の葉を拂ふばかりでなく、小さき人間の鼻や口腔から肺臟指して入込みまして、途中の抵抗力の弱さうな部位を選んで攻擊を始めます、白血球君の絕えず出入して居る扁桃腺などは誂向の處ですから寒冷い空氣の攻擊を受けまして、炊衝といふ變化を起し眞赤になつて膨面をして大騷を始めます、同時に鼻や咽頭も同様の變化に陷りまして、鼻汁が出る、刺戟があるために蒼蠅く咳嗽が出る、多少の熱を作ふので御機嫌が惡い、是等の部位はまた實扶丁里の寄生し易い所でありまして、飮食の際に咽頭に痛があるらしい時には是非咽頭を看るがよい、厚い黃色ぽい又は不潔い白つぽい苔が咽頭に附著て居て、其周圍が赤く膨れてゐる、兩顎の下の處の腺が膨れて居て觸ると痛がる、小兒の咽頭に白いものが見えたらば一刻も早く醫師を招いて其指揮を受けねばならぬ、何故ならば發病第一日か又は第二日に血清注射をすれば、大多數は助かるからであります、早期診斷の是の如く有效ある病氣は他に類例が無いからであります、故に兒を持た親は每朝其兒の咽頭を看る習慣をつけて置くのがよいのであります、實扶丁里は咽頭を冒す外に又鼻腔を襲ふ事があります、鼻の實扶丁里は殊に性質が惡い、鼻が實扶丁里に冒された事が如何して判るかといふに、血液の混つた鼻汁が分泌たならば先づ第一に疑を起さねばならぬ、第二に鼻腔の入口が爛れ痂皮などが出來て居る時には咽頭に變化がなくともやはり實扶丁里を疑はねばなりますぬ、以上二箇所の外に實扶丁里の好發生地は喉頭です、此最後の部位に發りますと、喉頭が塞りて呼吸が苦しく、咳嗽は犬の吠える樣又は鋸で物を斫る樣で、

響が強くて遠くから聞えます、小兒は眼を据えてへッとの上を轉がり廻り、親の愛の眼は寸時も是を看て居る事が出來ませぬ、此の苦悶は機械的に喉頭が塞がり、呼吸が出來なくなつた爲に起るのでありまして、實扶丁里でなくとも他の如何な病氣でも喉頭を塞げば起るので、總稱めて格魯布と申し、實扶丁里で起つたのを實扶丁里格魯布と申し、他の病氣で起つたものと區別します、格魯布より小兒を救ふのは手術により人工的に呼吸の途を作るより外に道はありません、血清は注射後二十四時間を經過ぬと效が現れぬから急場の役に立ぬ、以上三箇所の實扶丁里は同時に起る事もあり、又は箇々單獨に起る事もあるから、咽頭に白いものがないから實扶丁里で無いなどゝ間違つた了見を持て居てはならぬ、次に實扶丁里で最も恐いのは麻痺であります、是は咽頭の白い膜も取れ、熱も下り、半ケ月か一ケ月經過てから起る、飲食する時に噎たり鼻から出たりするのはもう麻痺の起つた證據で、一番怖いのは心臟麻痺で

病後に樂しく大道で遊んで居る小兒が突然死の手に渡される事がある、であるから實扶丁里殊に重症ものゝ後には安靜を守るのが何より必要であります。

曩に述べた樣な滲衝といふ變化が咽頭から喉頭、更に進で氣管、氣管支を冒しますと、氣管支加答兒になります、此處で病氣が留まるとさして心配な事もありませぬが、一步を進めて瓦斯交換所が冒されますると、小兒は重體に陷りまして、呼吸は苦しくて鼻翼が動き、力の無い弱い咳嗽が出て素人にも重い病であるといふ事が一見判る樣になります、是を加答兒性肺炎と呼び、又主として小兒を冒すから小兒肺炎と申し、醫師の最も恐るゝ小兒病の一であります、而して二歲以下の小兒は殊に氣管支加答兒から肺炎を起し易いから、氣管支加答兒だからといふて輕蔑して居ると、愛兒の生命を犧牲に供せねばならぬ樣になるから是非根治しなくてはならぬ、霜を蹈みて堅氷至るとは此事であります、呼吸器病を起したらば、小兒を暖い濕つた空氣の中に置くがよい、

醫病を受けるのは申迄もない。
此外秋の小兒病は許多もあるが、紙數に限ある事故省略ました。

小兒の耳を愛せよ

秋山柴朗

人間の五官器のうち、耳は、大切な役目を持つて居るもの丶一つであります、何故ならば、我々の智識は、耳によつて學んだ部分が多い。今では、自由に書物を讀んで、隨分六ケ敷理窟をも理解して行くことが出來ますけれども、突然、我等から、二つの耳を奪つて、何事も聞くことの出來ぬやうにさせられたら、什麼でせう、まして、文字なく、讀書力なき幼稚の時代に、聽くべき器官を失へば、その前途は只暗黑と申すより外はありませぬ。

小兒の智識は、その初めに於て、全くこの耳より得るのであります、眼で見ても、其意味の解らぬことが多い、このときには人の說明を耳から輸入するのであります。

まことに、耳は、智識を輸入する經路で、この關門こそ實に貴いものである、御覽なさい、聾や、極めて耳の遠いと云ふ人は、何れも、その精神の發達が後れて居るではありませんか、甚だしいのは、敎育にかゝることの出來ない場合もありませう。

生れつきで聾のものは、致方が無いけれども、折角健全に生れて、而も不注意のために聾にしてしまうことがある。丁度水道の栓を閉づるのと同じで、栓塞した水道からは、智識と云ふ新鮮な水は、どうしても、得るわけには參りませぬ。これほど殘念なことは、世の中に多くはありますまい。

小兒が生後四個年位までの間に聾となると、殆んど聾啞になつてしまひます、何故ならば、聽くべき器官が障碍されると、言語も學ぶわけには參らぬからです。

四歲から、七歲までの間に聾啞となりたるものは、

若し周圍のものが、これに良き注意を與へ、そして小兒の理解力が良く、且つ已に讀書を學んだものでは、幾分言葉をも學ぶことが出來ます。

俄かに、耳が利かなくなると云ふことは、一面には周圍の世間が、大そう狹くなるのです、と言ふのは例へばいろ〳〵の會合にも、訪問、演說、演劇等の種類に至るまで、全く意味なきものと、化してしまふのと、交際の範圍は、益々少くなるのであります。

只にこればかりではありませぬ、日常の家業を營むにも、耳の遠いために、或は全く聞えぬ場合には、どんなに不便か知れませぬ。

約言すると、克く聽く耳は、何れの職業にも大切であります。

耳の病氣のために、死亡するものが、頗る多いと云ふことを知つて居るものは、如何にこの耳を看護すべきかをも、承知して居らねばなりませぬ。又耳の病氣に基いて他の怖るべき疾患を招くことの少からぬ事をも忘れてはなりませぬ。

小兒の耳は、極めて疾患に侵され易い傾を持つておりますから、假令健康なものでも、一定の攝生法を守ることは、大事であります。教育者や、兩親は、このために、注意を怠つてはなりませぬ。

耳の刺戟となるものは、申すまでもなく、音響であるが、この音響は、小兒が生れた時は、只刺戟となつて、何の意味をもなさないが、後には、これを利用して、智識の紹介者とまで仕なすことが出來る、かかる關係は、また、空氣や、光線に於て見ることが出來ます、卽ち空氣も、光線も、音響も、初めは五官器に對して強い〳〵刺戟となるのである、これは、五官器がそれ〳〵の刺戟を受取ることに、尙ほ馴れて居らぬからです。

空氣は、皮膚に向つて、刺戟となるが、漸々これに馴れて參るのと同じ、眼も光線に馴れ、耳も音響に馴れ、後には、その刺戟を知覺するやうになるのであります。

併し、馴れてはくると云ふものの、若し普通より過度の刺戟、例へば、強い光線が眼に入るとか、劇しい音が耳に響けば、矢張り、器官に障碍を及ぼすことになります。

玩具の笛を耳の傍で吹いたり、又下を叩いたり、大きな聲を出したりするのも、よろしくないのである。外來の害を受けぬためにとて、輕き頭巾を被らせて耳や頭部を守ることは、結構であるが、頭巾をきつくしばりつけることは、却つて害になります。耳はこのきつく結ばれた頭巾の爲めに、壓せられて、さては故障を起すことになる。

（以下次號）

哺乳兒の衞生（承前）

H. S. 生

入浴は、前に申した樣にして、行ふのであるが、湯の溫度は、凡そ一週間位は、同等の溫度で、それから後は、毎週一度位づつ、低くして、三十度位までにするのです。

今日では、冷水を用ゆる場合も出來て來ました、すなはち、初めのうちは、四乃至五度、後には、十度位にして入浴をさせるのです。最も好いのは、水壺か又は水罐に、水を容れて、これを灌ぎかけることであります、かくして、溫度の變換に逢つても、俄かに變調を招かぬために、皮膚の抵抗力を強くして置くのであります。しかし、頗る冷寒の水を以て、小兒を處置するに方つては、豫め充分の注意をせねばなりませぬ。殊に初生兒をば、冷水で沐浴させ或は、冷水を灌ぎかけると云ふことは、前に述べたやうな利益はあるが、もしこれに堪え得ぬ場合には、強壯にとて施したことが、全く害と化してしまふのであります。

入浴の際に、新鮮な空氣を與へることも必要なことで、生れて一週間も經つと、常に新しい空氣を吸收するようにし、殊に春又は夏にありては、天氣の溫暖な日は、毎日外氣に觸れさしめる必要がありま

す。しかし、直接の日光は、これを避けねばならぬ、或は廂の出た頭巾で頭部を護つてもよろしい。風も靜で美はしき日には、光線浴や、空氣浴をさへ試みてよいのである。

右の様な次第でありますから、寒い時に生れて來る小兒は、不利益です。何故なれば、抵抗力の弱い赤ン坊を外に連れて出ると、直樣身體に障碍を招くからであります。只極めて溫な日中丈けを利用し得る位なことであります。それであるから、又小兒の室間のことも注意をせねばなりませぬ、その度に過不及のないことを圖らねばなりませぬ。

小兒の散歩は、搖籃にせよ、負肩にせよ、始終一方に偏ことは宜敷ありませぬ。なぜと申すに、幼兒の身體と云ふものは、極めて柔いのでありますから、始終一定の位置を保たして置くと云ふと、その姿勢が後になつても、直らぬことがあります、それであるから、肩に負つたり、搖籃に乘せたり、又手に抱いたりして、種々其姿勢を更ることが、大事です。

小兒が眠つた節には、自分の腕から、牀の上か、又は搖籃の中に移さねばなりませぬ。

臥牀は、哺乳兒にとつては、何よりも大切なものです、生れてから、一個月間は、毎日、二十時間乃至二十一時間をこの牀で過すので、凡そ半年の間は、大抵四分の三は、眠つてこの牀の中で暮すのです。

乳兒の牀は、別にこさへて、其處に寢させ、決して母の牀に眠らせてはなりませぬ。

敷蒲團は、馬毛で製し、その上に、柔かな綿の被蓋を用ひるのが、一番よろしい。

頭の高さは適度に置き、枕は羽毛を用ひざるをよしとす。あまりに溫すぎて、却つて乳兒を弱くするからである。

乳兒が、搖籃、車、牀の中等にあるのは、どちらでも、あまりかわりはありませぬ、併し、召使ひをして、小兒の守りをさせねばならぬ場合には、搖籃は用ひぬ方がよろしい、不注意からして、ひどくゆすぶつたりして、乳兒に害を招かしめることがありま

す。

小兒のために、特に別室の設備があるならば、至極結構である。しかしそんなに出來ぬ場合が多いから一應室の衛生法を心懸けて置く用があります。

室は、成るべく南向き、又は南東向きを選び、北向きは、一切避けねばなりませぬ、何故ならば、小兒にはわけて、太陽ならびに光線の要が著しいからであります。

次では、新鮮な空氣を入れる要があります、それで少くとも二つの窓は、設けねばなりませぬ、尤も我國の建築では、空氣の交換が割合に克く行はれますから、結構です。

寢室の溫度は凡そ列氏の十二度、住居には、列氏の十四度を度とすればよろしい。小兒を寒い所に寢かせたり、また永く措くと云ふことは、期して害を待つことになります。

また騷々しい方角や、塵埃の多い方向に室を設けることは、好ましくはありませぬ。また塵埃を多く吸收するものを用ふるのはよく無い。

設備はすべて簡單にし、そして、小兒の需用に適合せねばなりませぬ、且其處に具へた器具は、容易に洗ふことの出來るものでなければならぬ。

小兒の室は、二階より下室の方が適當です、室の小なるより大なる方がよろしい。

家庭衛生

室内の空氣

D. T. 生

吾々人間は、魚の水に於けるが如く、常に空氣の中に活きて居つて、暫らくも、これを吸はぬ譯には參りません。鯉などは、水を離れても、ちよつとは死にませぬが、人類は、五分間と空氣を吸はねば、死でしまひます。此の如く、暫時も缺くことの出來ぬ

ものでありまするから、その良否は、これを呼吸する者の健康に、極めて密接の關係あることは、更に疑のないことであります。先づ空氣が、惡ければ病氣を惹起し、毒を含んで居れば、中毒して死ぬやうなことになります。それで職工などには、なかなか肺病が多い。これは年中その工場の空氣には、塵埃や烟が滿ちて居りまするし、吾々の室を暖める火鉢や暖爐の燃料も生燃えであれば、炭酸瓦斯の中毒を起し、病氣の卵が呼吸と共に身體の中に這入れば又以て傳染する。斯樣な譯で、健康と病氣には空氣といふものが大關係ある。尚ほ空氣の、病氣を癒はす效があるといふことは一般に知られて居ることで久しく患らつたものが、田舍の空氣の善い處に行つて、大にその健康を恢復し、虛弱い小兒の強くなることは、日々吾々の見る所であります。又神經病のものには、山や海の空氣が、往々唯一の效ある藥となることが御座ります。

空氣に關する衛生學の中で、最も大事な一條は、室内の空氣でありまして、その健康に取つて善いか惡いか、種々居室や寢室の空氣の關係を論ずることであります。一體、室の内の空氣を特別にかれこれと論ずるのは、一寸可笑やうにも思はれるかも知れません。何故ならば、吾々の室の内の空氣とても、別に家の外の空氣と異つた空氣ではあるまい、空氣と云ふからには、成分の定まつたものであると考へられるからであります。又大都會では、家の内でも矢張大都會の空氣、百姓家の内では、同じく周圍の田舍の空氣である。これは一應尤な理窟であります。然しながら室の内で、外よりも善い空氣を吸ふことは、なか／＼容易でない、又往々殆ど出來ないことであります、又一方に於ては、外の空氣よりも室内の空氣を惡くすることは至て容易で、時には非常に有害になるのであります。その心得方一つに由ては善良なる、健康に效ある田舍の空氣も、これを百姓家の内に得ず、都會の中にても、その方法に依ては田舍に劣らぬ空氣の效能を見ることが出來るので

あります。

今空氣の化學的成分に就て見ますれば、千「リットル」の空氣の中には、生活に最も必要なる酸素が二百十「リットル」、それから窒素が七百八十「リットル」、約十「リットル」の水蒸氣と、三分一「リットル」の炭酸瓦斯とを含んで居りまして、その他極少量の他の瓦斯を含んで居ります、此の中には健康を催進する效のある「オゾーン」も含まれて居るのであります。今茲に述べましたのは、これは室外の大氣に就いての話でありまして、土地の高い低い、又都會と田舍とでは、本より異がありますが、閉込めた室の内の空氣でもなければ、大體かやうな割合のものであります。吾々の室も晝夜窓を開け放して、その中に人が住まぬならば、殆ど室外の空氣と大差はないのでありますが、これが一度住居をして、晝夜その中に寝起をすることになりますれば、どうしても同じ譯には參りません。こゝに於て、これを呼吸するに適するやうにすることが最も大切なる實際の問題となつて來るのであります。凡て用ゐられた物質、使はれた道具の、もはや使用されぬ前と同一でないと云ふことは、一般の通則でありまして、空氣とても此の規則に漏れないのであります。吾々の肺臟は呼吸に由て、その酸素を取り入れますが、これを出さない。而してその代りに炭酸瓦斯としてこれを外に出すのであります。それで吸入される空氣は、千「リットル」の中に、二百十「リットル」の酸素と、僅かに三分一「リットル」の炭酸を含んで居りますが、呼出される空氣は、もはや百五十「リットル」の酸素しか含んで居りません、而して炭酸の方は殆ど四十五「リットル」になるのであります。然し幸に人間は千「リットル」の空氣中の酸素を悉く用ゐ盡すのではありません。これだけあれば、先づ八時間位は間に合ひまするし、なほ中等大の室であれば幾千「リットル」の空氣がありますから、忽ち酸素が無くなつてしまふといふやうな心配はありません。然し呼吸機能に由て、特に多數の人間が、その中に居つて、

餘り炭酸が多くなつた時には別物であります。即ち炭酸を多量に吸入すれば、勿論甚だしき中毒を起しますが、少量であつても、有害でないことはありません。衞生學の泰斗であつたペッテンコーフエル氏は、自分で試驗を致しまして、健康に害を及ぼさない室内の空氣といふものは、千「リットル」の中に一「リットル」の炭酸を含むもので、千「リットル」中、二「リットル」の炭酸を含むに至れば、著しく惡心、呼吸困難、眩暈及び耳鳴を起すことを發見されました。又同量の空氣中に三「リットル」乃至四「リットル」を含めば、已に死を來すに足ると申されましたが、通常中等大の室を閉ぢ込めて居る時は、只一人の呼吸に由ても、既に二三時間の後には、かの未だ有害ならざる炭酸の含量を超えまする。それで三時間か、四時間毎には是非風を通すやうにしなければなりません。敎場とか集會所とかいふやうな所であれば、一人前の空氣は至て少量でありますから、銘銘呼出した炭酸に由て中毒することは、甚だ速かになつて參ります。それでありますから、斯様な所では、一層十分に、且つ一層屢々空氣を入れ代へることが、甚だ緊要であります。

呼吸の作用に由りまして、尚ほこの他に一種の毒が室の中の空氣に混ぜられるものゝやうに思はれます。それは「アントロポートキシン」即ち人毒などゝ云はるゝものでありまして、これに就ては確かなことは分かりませんが、その存在するといふには、深い根據があるのであります。これは、生活機能に由て出來た所の、一種の毒性頽敗產物でありまして、これに由て、その器官の中毒を來たさぬやうに、外に出されるものであります。この他に又人間の身體自身から生ずる所の化學的の物質がありまして、これが室内の空氣に混じて、外の空氣との差を益々大きくすることになります。乃はち何人でも、その身體の表面及び内部より、絶えず、固有の瓦斯を發散するものでありまして、この臭のあるものを周圍の空氣に混ずるのであります。殊に種々の仕事や、住

居に必要な働に由て、いよ〳〵空氣を不潔に致します。乃はち臺所の煮炊も、隨分烟や灰などを飛ばし又食事、睡眠等の事に由ても、室内の空氣を變ずることが尠なくありません。室を暖めるとか、燈を點けるとかいふことに由ては、外の空氣には殆ど無いと云ふてもよい瓦斯を、室内に出します。草花や盆栽などは、この臭や、瓦斯を消す働があり、特に晝の間は、室内に溜まつた炭酸の一部分を採つて、清潔な呼吸をするとの出來る酸素を吐出すといふ效能があります。但し室内の空氣は、蒸氣を多く含んで外の空氣よりも濕めつて參ります。溫度を高くすれば、空氣の成分は、その附の高い所と低い所で異つて參ります。終に室内の空氣は、外の大氣よりも澤山の黴菌や、病原物を含んで居ります。この浮游黴菌の危險といふことは、近頃まで稍ゝ重く考へ過ぎて居つたので、空氣は以前に云ふた程病氣の傳播をするものではありません。然し今日でも、空氣に依て傳染さるゝ病氣はあります、即ち結核菌などは、さうであります。それで結核菌の澤山ある室内の空氣に由て、實際健康な人もこれに罹ることがあります。尤も結核患者も健康者と同じ室に棲で居る時に傳染することが多く、單に空氣に依て傳染するといふことは、餘り多くないのであります。若し凡ての人が、結核患者との交際に必要な心得を守つたならば、室内空氣に依る傳染の危險といふことは、極めて僅かになるであらうと思はれます。

其時の心得（承前）

A. S. 生

肥滿に困る人は

注意せよ　肥滿といふものは、何れも皆病的のものであるといふ譯ではない。然し病的の肥滿を除くことは、これを避けることよりも、遙に困難である。であるに由て、先づ〳〵最初より、餘りだふ〳〵になることを、防ぐやうに氣を附けることが肝要であ

る。

病的の肥滿は、何時でも、新陳代謝の故障から起て來るものであつて、餘り澤山食物を取るか、或は身體に取り入れた物質の十分燃えきらぬか、又は餘計な物が十分除き切れぬか、いづれかである。そこで先づ第一に、自分の肥滿の原因は何處にあるか、これを確かに定める、而してこれを避ける工夫をしなければならぬ。

食物も飲物も餘計に取てはいかぬ。一體人間は、全く必要のない物を、餘りに澤山食べて居る。實際每日の榮養品の大部分は、これを取らずとも、健康に障はない。勞働者が身體を保つて居るに十分な食物の量といふものは、至て小量なものである。次に食物の性質を善く吟味して、むやみに滋養物といふやうな物ばかりを澤山食べぬやうにし。自分の獻立表に上ぼる食品の性質を明かにして、その體に及ぼす關係を精密に知ることが必要である。而して身體の中で、相當に物質が燃えるやうに、言葉を換へて云へば、その身體を造り上げるに必要な物を同化し、これに用ゐられ了つた物質は、これを正しく外に出してしまふやうに氣を付ける。

これには正規にして尋常なる消化と、適當にして十分なる身體の運動とが必要である。

それには、次の二つの事を能く守るやうに力めなければならぬ。

第一、多く眠ることを勿れ。眠る時には、物質が特に身に成り易いといふことを考へ、そこで體操、遊戯又は庭掃除なり、洗濯なり、何にでも自分に出來る運動をして、物質交換の旺盛になるやうな仕事をする。

第二、浴湯せよ。特に蒸風呂。羅馬式及び露西亞式が適當であるが、必ずしもさうでなくてよい。只規則正しく湯に入る。これと同じく、よく理窟に叶つた全身の「マッサージ」をやる。

注意せよ　右の方法を以て、その身體を爽快に且つ活潑に保ち、種々の肥滿を防ぐに十分である。が、

その病が、已に起つて、未だ遁れぬ中に心懸けなければならぬ。

寢るには注意せよ　吾等が一生の中ば以上は、寢室の中に暮すのである。然れば、これは決して忽諸にしてはならぬことで、薄暗い、風通のわるい室などではいかぬ。寧ろ家の中の一番善い室をこれに充てなければならぬ。

規則正しく、何時も同じ時刻に牀に就く樣にする。餘り遲くてはいかぬ。先づ寢る時には、早速著物を脱いで、丸裸になる。而して、この機會を利用して全く著物を脱いでしまつて、暫時正しく深呼吸をやり、微溫湯で身體を拭いて、而して直ぐ寢るのである。寢牀は、淸潔な蒲團でさへあれば可い、その他のことは何も要らぬ。

柔かな羽毛を入れた蒲團などは宜敷くない。こんな物は皮膚の呼吸を妨げ、又汗の發散を害する。掛蒲團も決して鳥の羽毛などを入れたものを用ゐてはならぬ。これは善い毛布とか、或は從來の蒲團の輕いものに限る。かうすれば、身體も正しく、その不用になつた物を外に出して、新しい空氣を取入れることが出來るのである。

而して風通しの善い室に寢ることが大事である。これには窓を開けて置けば最も善い。これは誠に健康な方法である。然し日本の家では、直接に風に當たる恐れがあり、又無用心になるから、その家々に由て、この邊の工夫が要る。冬は、窓を閉めなければならぬ。而してこの時は、矢張冷たい室よりも暖めた室の方が善い。病人とか、老人でもない限りは、火燵や脚爐は忌むべきことである。元來我邦の暖室法は、極めて不完全であるが、未だ紅くならぬ炭火を火鉢に入れて、室に置くのは甚だ毒である。然し西洋室の硝子窓を閉め切るよりは、障子窓の風通し善いことは明かなことである。殊に硝子窓では、呼氣の中に含まれて居る水が、冷めたい處に觸れて止まるから、その氣孔を塞ぐことになる。それで自然

の風通しを妨げて、非常に室の內の空氣を不良にする。

次に、寢室は明るくなければならぬ。試みにこれが又病氣であると思ふて見よ。破傷風とか、眼病の或場合などは特別として、何れの病氣でも、醫者がその健康を恢復させやうとするには、どうしても太陽の光線を缺く譯にはゆかぬのである。

著物を脫ぐのは、出來るならば、寢室で脫がないで隣の室で脫ぎ、その著物も外に出すやうにする。さうでなれば著物の塵埃が落ち、臭が出て、氣息と混ざることになる。これと同じ理由からして、敷物や坐蒲團のやうな塵埃の着いて居る物は、一切これを室から外に出してしまふ。寢室は極く單純に、明るく、容易に掃除の出來るやうに、一切餘計な物や、贅澤物などを置かぬやうにすべきである。

胃を惡くした時

胃を損じて、腹が張るとか、噯氣が出るとか、胸がやけるとか、又は胸が惡いとか云ふやうな場合には少し忍耐して、無闇に藥を用ゐぬ方がよい。飢は最も善い料理人だと云ふが、これは亦胃にかけては最も善い醫者であると云ふことを考へなければならぬ。

而してなるべく胃をいたはつて、味の輕い「ソップ」とか、重湯位の所にして、胃を休ませ、餘り難儀をかけずに癒ほすことをしなければならぬ。特に食の進まぬ時に、烈しい藥味、例へば、胡椒、芥子、唐辛などのやうな刺戟性の物を用ゐて、食氣を振はさうとするのは宜敷くない。凡てこれらの物は、直接に有害であつて、且つ決して胃加答兒を癒ほし得ないものである。

若し噯氣が出るとか、胸が焦けてたまらぬと云ふやうな時には、少量の重炭酸那篤僧謨を、食後直ぐ服めばよい。然しこれも一日か二日より長く用ゐてはならぬ。さうでないと胃がこれに慣れてしまつて、いよ〱大害を來すことになるからである。

胃が尙は弱くて、普通の食物も消化し切れぬやうな

状態の時には、食時の際に、砂糖水一杯に、二三滴の稀鹽酸を滴して飲むがよい。然しこれも亦一二日より長く續けてはならぬ。

以上の方法で以て、暫時の間にその目的を達せぬときは、これは一通の胃加答兒ではない。別に醫者の手にかゝらなければならぬ病氣である。その時には凡て今云ふたやうなことを止めて、早速醫者に任かせることである。

必要な眼鏡

眼の構造の悪いものを區別すると、次のやうなものである。

一、遠視　普通よりも眼球が短かいのである。續けて近いものを視る(讀書、裁縫)ことが困難である。

二、近視　この眼は、普通よりも眼球が長過ぎるのである。やゝ細い物を視るには、目を近づけなければならない。

三、亂視　角膜の彎窿面が不規則なものである。物體が不明瞭に歪んで見える。

四、老視　眼の水晶體の彈力が減退したのである。讀み書きが困難で、遠視に似て居る。

第一、遠視は、大抵生れ附きで、遺傳である。眼鏡が必要である。遠視の小兒には、なるべく早く、二歳か三歳位より、凸鏡を掛けさして、視力を善くし斜視、弱視、又頭痛などを防ぐやうにする。

第二、近視は、往々生れつきの素因があつて起るのであるが、學童は教室の薄暗いだけでも起るやうである。近視の者は、絶えず眼科醫から、精密に檢査してもらつて、適當な眼鏡を掛けて、眼を苦めることを避け、頭痛や、惡い姿勢を防がねばならぬ。

第三、亂視は、生れつきであるか、或は眼の炎症又は損傷の後に起る。精密に適當な眼鏡を掛ければ、能く視えて、頭痛なども恢復する。

第四、老視、四十歳後から段々眼の機能が衰へるので、近い物を見る(讀書、裁縫)に差支へる。これは凸鏡で以て補ふことが出來る。猶豫せず、適當な眼

鏡を用ゐるがよい。不必要な骨折をして、頭痛などを忍ぶことは無用である。(近視眼のものだけは、老年にも眼鏡なしに讀物をすることが出來る。私は、此年に成つても、眼鏡などは要らぬ、と自慢する老人は、もと近視眼の人であつたことを白状するので眼の強いと云ふ理窟にはならぬ)。

眼鏡の代用をする、强眼水など云ふ目薬は、決して有る筈のものでない。

衛生小言 (承前)

婦衛冠者

眼の療治

眼の開いて居る中は何とも思はぬが、偖て一度これが潰れた日には、殆ど生きて居る甲斐がなからうと思ふ程であるから、もとより誰も眼の大切なことは知つて居る。然し餘程痛みでもなければ、一寸かまはずに置く。少し埃が這入つて赤くなつた位の時はそれでよいが、若し眼の角膜、即ち黒目の處に小さな傷でも附けば、これはなか／＼馬鹿にならぬのである。その他少し療治を誤つたばかりで僅かの事から盲目になるものは隨分ある。一體眼病には、如何に適當な療法を施しても、相當の日數を經なければ全治する譯にいかぬものが少なくない。そこで二三日醫者の許に通つて癒らぬと、忽ち治療の效がないものと考へる。所が専門の智識を以て、適當な治療を施しても、二三日では癒る筈のない病氣であれば、打遣つて置いて癒る譯はない。そこで又餘所の醫者に換へる。それで丁度癒ればよいが、慢性の病氣であれば、矢張餘程辛抱しなければならぬ。同じくあきる。斯の如くして、漸く快方に向はうとする時に治療を止めて、前よりも一層惡くして、復た暫時醫者を試みる。遂には迷ひ出して、其所の不動樣彼處の觀音樣と驅け廻つた終は、偶然癒りでもすれば、病氣は醫者よりも不動樣に限ると、益々迷信を起して、如何なる病氣でも一切不動療法で以て、こ

れを他人にまで勸める、實に危いものである。若しまたそれで癒らず段々惡くなつて、眼が潰れでもすれば、不動も觀音もあつたものでない、怨だり、憎んだり、全く仇のやうに考へて、後悔するが、不動様や觀音様は左様な迷ひを起さぬやうにと思つて御座らうに、間違つた願を持て來て、それが思ふ様にならぬとて惡まれては、さぞ迷惑に感ぜらるゝことであらうと思ふ。今一例を擧げて見るならば、俗に肝目と云ふて、最初は白目の所だけが妙な色になり進んで黒目が濁つて來て、かまはずに置けば、段々甚だしくなつて、潰れてしまふ所の「キセローシス」と云ふ病がある。これは輕い間は、薄暗くなると、物が見えなくなつて、鳥目と云ふやうな具合である。これは榮養不良の小兒に多いが、成人でも、産後の衰弱などに來ることがある。この疾は少し榮養に注意して、特に肝油のやうな、脂肪に富んで居るものを與へれば、どん／＼癒るのである。俗に八つ目鰻を食へば效があると云ふが、これは目が澤山あるやうに見える所から來た迷信であらうと考へられるが確かに效能はある、と言ふのは、脂肪が多少あるからで、これよりも肝油の方が、數等效力がある。それで露西亞では、この肝油を一名盲油と稱して居る。それは露西亞で斷肉祭の時期に、この病氣に罹るものが多いとのことであるが、肝油を飲めば忽ち治癒てしまふからである。かういふふうに、榮養、殊に動物性の脂肪が必要な病氣であるものが、例の迷信からして、不動様に參籠する、而して露西亞あたりの斷肉祭などよりも一層無法なる斷食をするのである。その眼の潰れることを受合で、實際斯様な例が幾等もあるのである。これはその一例であるが、その他色々な神様や、佛様の屋敷にある手洗水を、御水と稱して、これで以て眼を洗ふ。東京でも淺草、下谷、日本橋邊には、斯様な療治をする眼病人は非常に多いやうである。それが又大變利目があつて如何なる醫者も癒はせない眼病も、忽ち癒ると言ふのであるから、實に危險千萬なものである。單に「ノ

ボセ」目、「カスミ」目など云ふて居るのは、餘り不潔でない水で洗て居れば治癒るであらう。元來涙は自然に消毒の作用があるから、傷でもない限りは、多少、それらの不潔水を目に入れても害にならず、效能だけ見える。然し一度自分の持て居る眼は如何なるものであるかを知り、それらの手洗水を一寸顯微鏡で見せられただけでも、なか／＼頼まれても洗ふことは能うしまひと思ふ。

牀の中の讀書

これも眼について申すのである。昔は牀の中で書物を讀んではならぬと戒めるには、火が危いからと云ふてよかつた。實際蠟燭や、洋燈の明で本を讀んで居て、眠入んでしまつては危險である。所が近來は追々洋燈が廢れて電氣燈になつて來たから、枕邊に洋燈を置くやうな危險は少なくなつた。然しながら牀の中で書物を讀むことの宜敷ないのは、相變らずである。それは眼の爲に有害であるからである。第一寢て居ては、うまく光線を取ることが出來ず、書物を手にして居ることが困難で、多くは一側を下にして寢るから、兩眼を同等に働かすことが妨げられる。終に又寢て居て讀めば、兎角書物を目に近づけ易い、これが爲に近眼を惹起す恐がある。特に發育盛の年齢には、これは最も宜敷くないのである。それで十八歳以下のものが、牀の中で書物を讀むといふことは嚴禁しなければならぬが、これは又多少眼に故障のある人は、何人でも守らなければならぬことである。然し全くさうばかりもいかぬ場合がある、例へば病人などでは、よく寢て居て書物を讀まなければならぬことがある。その時は止むを得ないから、少くとも先づ明りを十分にし、眼に直接光線の來ぬやうに、肩と頭を高くして横はり、後の方から光線を採るやうにしなければならぬ。

包紙

我邦では從來、獸肉や魚肉を小賣する時に竹の皮に包むが、あれは誠に便利で善い。更にあれを熱湯で處置したならば至極適當であると思ふが、近頃では

却て新聞紙や古雜誌の紙で以て菓子や肉などを直接に包むのを見受ける。墨の著いた肉などは、見た所の宜敷ないばかりでなく、如何なる物が附著するか分からない。決して病毒の著くことがないとは云はれぬ。殊の外危險なものである。夜店、裏棚と云ふ處に多いのであるが、この新聞紙でもつて食品を包むことは段々多くなるに相違ない、これは自分では勿論、一般に宜敷ない方法であることを知らしめることが必要である。



雜報

○學生飲酒取締

去る九月九日を以て文部大臣は左の訓令を發せり。

文部省訓令第十二號

北海道廳　府縣

學校生徒の飲酒は教育上取締を要すべきは言を俟たず從來各學校に於ても常に適當の方法を講じて訓誡監督を怠らざるは本大臣の認むる所なり然れども訓育の目的を貫徹せんと欲せば學校と家庭と常に聯絡を保たんことを要す因て各學校に於ては自今飲酒の取締に就き一層家庭と聯絡を保つことに注意し以て教育の效果を完ふせんことを努むべし

○大阪婦人ホーム

同ホームは、大阪婦人矯風會の一事業なるが、創立以來二ヶ年餘に於ける成績は左の如し。

收容したる婦人の總數七百五十餘名、内新聞記事其他の紹介にて來りし者六百七十二名、脱走し來りし者四十三名、警察より受取りし者十一名、此中に於て奉公せしめたる者三百二十六名、其他は奉公の資格なき爲周旋して歸國せしめ、現在奉公しつゝある者百十五名にして、其中、家庭教師三看護婦十、事務員五、上働女中三十三、小間使十一、女中五十、ミシン裁縫見習三、他に結婚したるもの四名あり。

○萬國看護婦大會

兼て英國倫敦に於て開かれたる、萬國聯合看護婦大

會へ出席を命せられし、我が日本赤十字社の萩原看護婦長は、先月末歸朝せる由なるが、今その大會の模樣に就て聞くに左の如し。

大會は七月十九日より倫敦市ウエストミンスター、ヤチーチハウスに開かれ、同月二十四日まで會議を繼續したるが、その出席者の總數は五百餘名に及び英國、アイルランド、合衆國、獨逸、和蘭、フインランド、丁抹、加奈陀、濠洲、タスマニア、白耳義キユーバ、佛國、瑞典、瑞西、諾威及び日本より出席の各代表者にして、其間米國大使の晩餐會及び諸種の歡待を受けたるが、二十四日には特に、大英國皇后陛下よりウインゾル宮城の拜觀を許可せられたり。該大會は創立以來十年に相當したるが、今後每三年に一回の大會を開くことに決議し、次回は獨逸ケルンに開くことゝなれり。今回我赤十字社看護婦の狀況等に關しては、名譽幹事ドック孃に依て紹介せられ、その利益を以て標準とするにあらずして、全く愛國心に基ける事、看護婦事業の位置高き事、篤志看護婦の事、訓練敎育の事、年齡の事、未婚者を以て生徒とせる事、學務と實務の事等に就き遺憾なく披露せられたり。

○鐵道院と勞働者待遇

鐵道院中部管理局にては、今回管內各工場の勞働者に對して、特別の待遇を與ふることゝし、去月十一日を以て大要左の如き通牒を發したりと。

近時本邦工業の發達に伴ひ勞働者待遇の方法一般世上の問題に上りつゝあるに付き當局に於ても國家交通の立場より勞働者待遇の一助に供するため鐵道利用の方法を設け勞働者の團體乘車に對し普通賃金の約四割以上五割まで前例なき大割引を斷行することゝしたり是れ皆平素工場にありて勞役を事とする勞働者に對し時々市外清潔なる海岸若くは名所舊跡地に旅行せしめ以て心身の慰安を與へ衛生上は勿論就業上にも稗益あらしめんがためにして他の不完全なる娛樂等の如き弊害を生ずる虞なく待遇上有益なる良法とす尚ほ其實行に就ては出來得る限り便利を圖る可ければ當局微意の存する所を諒し遠慮なく之を利用あれ

大日本婦人衛生會記事

○本會例會

豫告の如く本月二日午後一時半より神田一ツ橋なる女子職業學校内に例會を開けり。八九の二ケ月は、會の定によりて、例會も休なりしことゝて、會員も殊に早くより參集し、四方山の話に賑ひしが當日は總裁東伏見宮妃殿下にも御來臨あらせられ、役員一同御迎ひ申上げ、暫時階上の別室に御休憩あり、やがて定刻にもなりぬれば、會長鍋島侯爵夫人の御先導にて、御用掛を從へられ、會場に成らせ玉ひつ御著坐あれば、會長始め、副會長並びに諸役員の席も定まり、係りの者開會の辭を述べ、講師並びに演題を紹介するや、醫學士土屋岩保氏登壇、腸の機能に就て講演せらる。始めに胃腸の關係を簡明に闡解せられ、その生理病理に亙りて要點の說明あり、便秘下痢等に關する趣味あり且つ有益なる講話なりし。尙ほ講演の前後に於て、明年の日英博覧會に出品せらるべき會場の寫眞を撮影せり。右終りて總裁宮妃殿下には再び別室に御少憩の上、御機嫌麗はしく御歸邸遊ばされたり。會員も暫く談笑の後、散會せるは午後四時頃なりき。

當日出席役員は左の如し

濱尾作子　松井止子　鳩山春子
三浦敦子　三宅藤子　羽田三緒子
高木錄子　小川喜子　田村喜代子
岡田徳子　長谷川仲子　中濱芳子
岡山さし子　土肥多越子　宮本樂子
鍋島榮子　吉武輝枝子　岩下ゆか子
濱田拾子　宮下咲子　（以上出席順）

○本會入會者

○新藤稔子紹介

●廣島縣佐伯郡廿日市町驛前　通常會員　新藤いね子

○轉居

●麹町區山元町一ノ四へ　小山田かじ子
●府下豐多摩郡戸塚村下戸塚二九三へ　齋藤ます子
●本郷區弓町一ノ二十八へ　丸茂むれ子
●静岡縣庵原郡興津町清見寺へ　山梨識子
●相模國小田原町十字三ノ七二〇へ　大木珠子
●愛知縣豐橋市新川原町一二一へ　松村千枝子
●本郷區西片町十ヘノ二十四へ　宮崎英子
●熊本縣鹿本郡來民町一五二一へ　米原時子
●赤坂區表町三ノ二十一へ　桑原春子

タカヂアスターゼ

●消化不良に就て熊本醫學専門學校長谷口博士は曰く、澱粉不消化の徴候たる胃の膨大疼痛、溜飲、腸内瓦斯滯積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ營養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと、又本邦消化機病學の泰斗長與博士は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ずと、

信ずべき統計に徴すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因すされば、タカヂアスターゼは胃腸障害に對する最も有力なる藥物なり。タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらる孰れも眞正品なり

●高峰博士發見の

世に幾多の摸造品及類似品ありタカヂアスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舖にて取次販賣す



●消化力强大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲すと近く官報を以て發表せられたる本田博士の學位論文に徴するに坊間に販かるゝ多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し數倍乃至十數倍を用ゆるにあらざれば之と同効を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は眞正品他は摸造類似品たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの説明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

●營養增進の目的を以て虛弱者貧血者所病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力迷に恢復するを見る、殊に肺結核患者に之を應用すれば其効力著明なりされば大阪高等醫學校長佐多博士は曰く、タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所とすと、又在京の栗本博士は曰く今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すと、柴山博士も亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧げたることを公示せられたり

●藥効均等論は晩近醫學者間に唱道せらる、所なり、内務省横濱衛生試驗所長西崎藥學士の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは各需求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の効力は固よりグリカーゼの効力も亦常に一定せりとタカヂアスターゼの効力毎常一定なるは其特長なりこれパークデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。タカヂアスターゼの用量は一回〇・二―〇・三錠劑(〇・一三)なれば一錠―二錠毎食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に聲明す

(後附の一)

新案特許一〇三六二號

衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを装置せるにより舊式のもの丶如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髪の傳染病を媒介する憂なし

● 丸髷　金十五錢より金七十五錢迄

● 島田髷　金三十錢より金壹四五十錢迄

● 銀杏髷　金二十錢より金六十錢迄

● 送料各八錢

● 諸かもじ製造販賣

東京市神田區豐島町十七番地

【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

● 小賣特約店

京橋南傳馬町　大西白牡丹

本郷三丁目　兼康

淺草駒形　百助

淺草駒形　紅勘

神田區須田町　三井屋

日本橋通二丁　柳屋

特約店

神田區松本町三丁目　勝本治助

日本橋區田所町廿一　山三商店

同　横山町一丁目　安井治太郎

同　馬喰町三丁目　萬新商店

日本橋區若松町　松葉屋紋太郎

同　横山町一丁目　天野源七

同　馬喰町三丁目　阿部錠

同　橘町四丁目　角島村商店

日本橋馬喰町二丁目　飛川商店

同　横山町二丁目　江川小間物店

同　横山町二丁目　森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

胃腸の理想的最新消化藥

大日本政府及歐米十二ヶ國政府專賣特許

東京醱酵學研究所長 岡崎桂一郎氏大發明 ▲賞牌受領（發明品博覽會に於て）▼

登錄商標

DIGESTIN

デゲスチン

一名 蛋白澱粉消化素

◎古來醫學者の淵叢として有名なる墺國維也納政府より新に發明特許を得たり

本品は植物性消化酵素にして各種の蛋白質殊に肉類の大成分たる膠質及纖維素並に乾酪質（牛乳）を胃に於ても腸に於ても完全に消化し且つ又「チアスターゼ」（日本藥局方）に優ること約七倍せる強大なる澱粉質の溶化及糖化力を兼備する胃腸の理想的消化新藥なり

醫治效用（一）胃腸の消化不良又は重病の恢復（二）榮養補給の目的にて肺病、氣管枝、肋膜の諸病（三）神經衝動の作用あるを以て腦病、神經衰弱、心臟病、脚氣等（四）腸内醱酵を抑制する效力あるが故に盲腸炎、腸チフス等及、濕疹の如き皮膚病（五）酒毒を消し便通を能くし乳汁分泌を增す（六）牛乳を消化する卓效を有す故に小兒用藥として必要なり

登錄商標

NIPPON DIASTALIN

日本ヂアスタリン

一名 澱粉強度糖化素

▲本品は本邦の特製品にて「ヂアスターゼ」の強力なるものを云ふ、其作用は百倍の澱粉を八分以内に溶化し三百倍以上の糖化力を有する無比の良品なり

▲本品は輸入せる「ヂアスターゼ」に比すれば數等優越せる澱粉糖化力を有し然も其の價格は却て低廉なり

▲本品は毎製品純良均一概に強度一定し且其效力に於て其品質に於て「ヂアスターゼ」中の第一位を占む而も澱粉を混有せざる純粋のものなり請ふ市場の實品に付て御試驗の上御確めあらんことを

▲▲ヂゲスチン解說作日本ヂアスタリン應用書御申込次第進呈す●兩劑共粉末は十四瓦入、二十八瓦入と、錠劑は各〇・二瓦三十錠入、百錠入の二種として各藥店に於て販賣せり▼▼

製造發賣元 東京市日本橋區本町三丁目（電話本局一四四三）合資會社 圓城商塵（振替口座一四一三番 電信略號…エンジョ）

販賣代理店 東京市神田區淡路町一丁目（電話本局一〇九六）風雲堂 後藤節藏（振替口座一〇一六八番 電信略號…〇フウ）

（後附の四）

私立大日本婦人衛生會米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に設く

第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を設く其任期は各一年とす

第四條　毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改選庶務會計等の報告をなす

第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し既納の會費は返附せず

第六條　當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條　會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條　會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすべし

第九條　講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條　支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を著用する事

第十一條　特に支會則に揭げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○通常會員章

第參號

メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號

正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號

七拾錢（黑塗箱入送費九錢）

六拾錢（桐箱入送費六錢）

○本會徽章料左の如し

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麹町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓四半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓四半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

東京市本郷區駒込追分町三十番地
編輯兼發行者　荘司秋次郎

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今非茜太郎

明治四十二年十月十六日印刷
同　年十月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百三十九號
（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍